



# 3期連続で 過去最高益！

2005年 6月 9日

県民の武蔵野銀行

URL : <http://www.musashinobank.co.jp>

## 第1章 2005年3月期の実績

2005年3月期決算の概要	3
利益の状況	4
主要勘定実績	5
貸出金の推移	6
貸出金の推移	7
預金等の推移	8
役務利益の推移	9
貸出金の状況	10
貸出金の状況	11
保有有価証券の状況	12
保有有価証券の状況	13
不良債権の状況	14
企業再生支援の状況	15
経営効率の状況	16
資本の状況	17
ぶぎんグループの状況	18

## 第2章 中期経営計画の進捗状況

計数目標の達成度	20
----------	----

収益の状況	21
法人戦略の状況	22
法人戦略の状況	23
個人ローン戦略の状況	24
個人ローン戦略の状況	25
預り資産戦略の状況	26

## 第3章 今期の取組み

法人部門の取組み	28
個人ローン部門の取組み	29
預り資産部門の取組み	30
地域特化プロジェクト	31
2006年3月期の業績予想	32

## < 参考 > 埼玉県と当行

埼玉県の特長	34
埼玉県の特長	35
埼玉県内経済動向	36
当行プロフィール	37
当行株価の推移と資本効率等	38
リ・エンシッパ・バンクへの取組み	39



# 第1章 2005年3月期の実績

# 2005年3月期決算の概要 ~ 前向き的好循環サイクル~

- フローの収益力を原動力に、財務体質の強化、営業基盤の拡充に繋がる好循環を形成

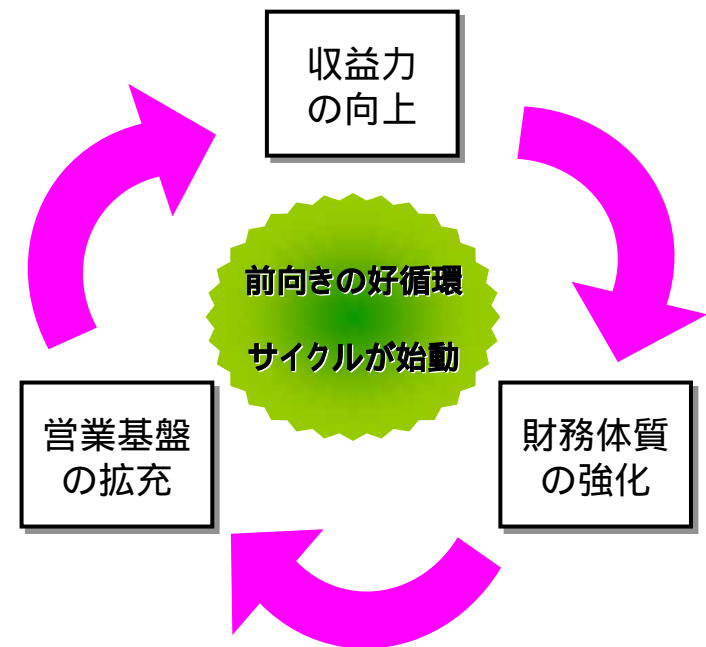
## 実 績

コア業務純益、当期純利益は3期連続、経常利益は2期連続して、過去最高益を更新

- ・貸出金(期末残高) : 2兆896億円 (前年比+7.3%と、一段と伸び率上昇)
  - ・預 金 ( " ) : 2兆8,045億円 (前年比+3.4%)
  - ・預り資産( " ) : 2,265億円 (前年比+75.3%の高い伸び)
- 預金、預り資産の合算伸び率: +6.7%

- ・コア業務純益 : 206億54百万円 (創業以来初の200億円台乗せ)
- ・経常利益 : 148億46百万円 (前年比+18.3%)
- ・当期純利益 : 80億57百万円 (前年比+31.5%)

- ・不良債権比率 : 3.8%台に低下 (ピーク比 3.4ポイント)
- ・不良債権残高 : 810億円に減少 (ピーク比 517億円)
- ・経営改善支援 : 185社ランクアップ(15年度からの2年間累計328社)
- ・配当可能原資 : 249億円確保 (ボトム比+127億円)



# 利益の状況 ~ 本業部門の増益でコア業純200億円台達成 ~

- 貸出金、預り資産の順調な伸びを反映して、各利益段階とも前年度に記録した過去最高益をさらに更新

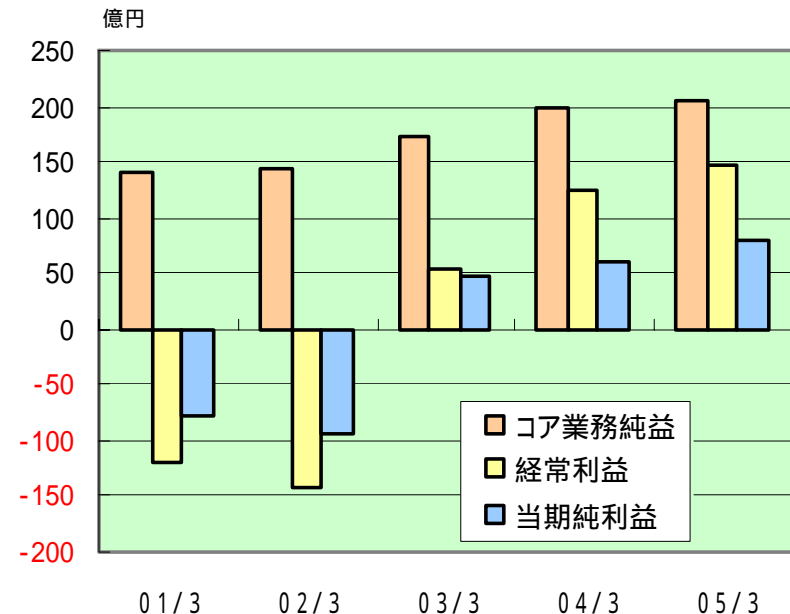
05年3月期の収益状況 (億円、%)

	実績	前年比	
		増減額	増減率
1 業務粗利益	526	24	4.8
2   資金利益	478	17	3.7
3   役務取引等利益	48	2	4.1
4   その他業務利益	0	5	-
5 経費( )	332	10	3.1
6 <b>コア業務純益</b>	<b>206</b>	<b>9</b>	<b>4.8</b>
7   一般貸倒引当金繰入額( )	7	7	-
8 業務純益	186	6	3.4
9 臨時損益	38	17	30.6
10   不良債権処理費用( )	39	2	5.6
11   株式関連損益	13	9	229.1
12   その他	11	5	29.8
13 <b>経常利益</b>	<b>148</b>	<b>23</b>	<b>18.3</b>
14 特別損益	8	1	13.0
15 税引前当期純利益	139	24	21.1
16 <b>当期純利益</b>	<b>80</b>	<b>19</b>	<b>31.5</b>

ボリューム効果でコア業務純益が、臨時損益の改善で経常利益、当期純利益がいずれも増益

収益の推移 (億円)

	01/3月期	02/3月期	03/3月期	04/3月期	05/3月期
コア業務純益	142	144	172	197	206
経常利益	120	142	54	125	148
当期純利益	78	93	48	61	80



# 主要勘定実績 ~ 運用・調達ともにボリュームアップ ~

- 貸出金の伸長を反映して余資が減少、有価証券利回りの上昇とも相俟ち、運用利回りが改善

&lt; 期末残高 &gt;

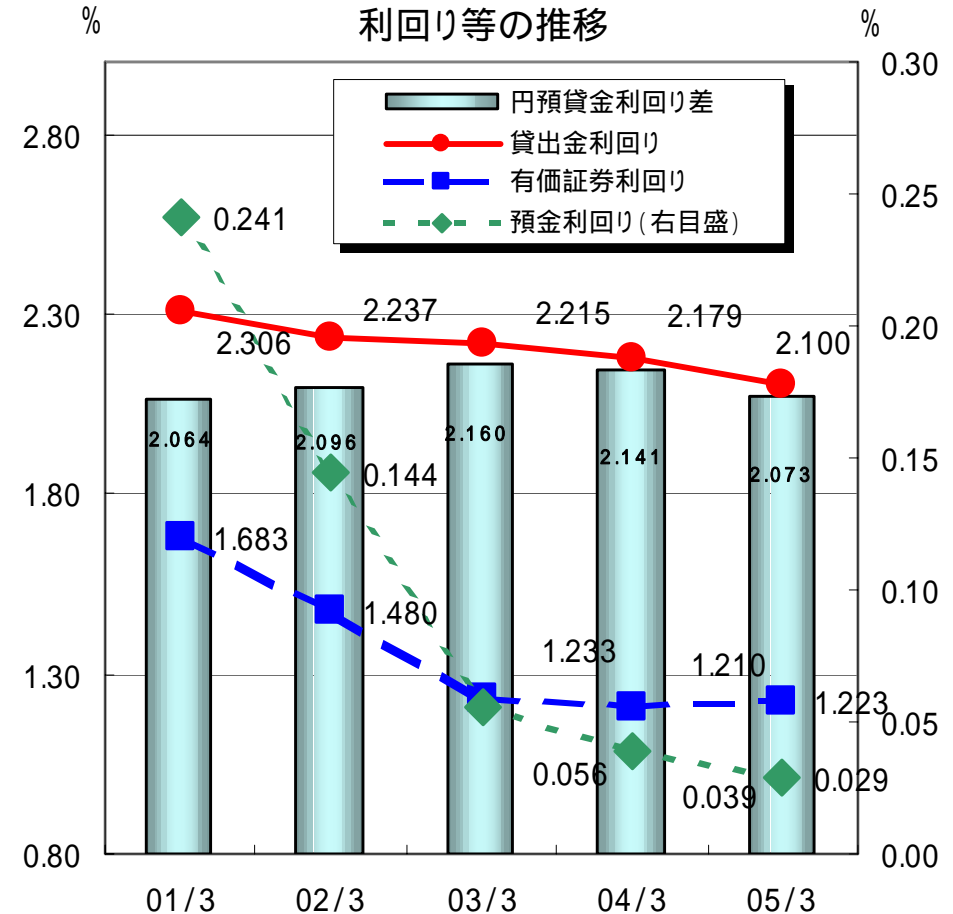
(億円)

項目	05年3月	前年比	
		増減額	増減率
貸出金	20,896	1,420	7.3%
有価証券	6,113	98	1.6%
その他運用	973	577	37.2%
預金	28,045	924	3.4%
預り資産残高	2,265	973	75.3%

&lt; 利回り等 &gt;

(%)

項目	05年3月期	前年比
資金運用利回り	1.775	0.006
貸出金利回り	2.100	0.079
有価証券利回り	1.223	0.013
預金利回り	0.029	0.010
経費率	1.205	0.007
総資金利鞘	0.521	0.019

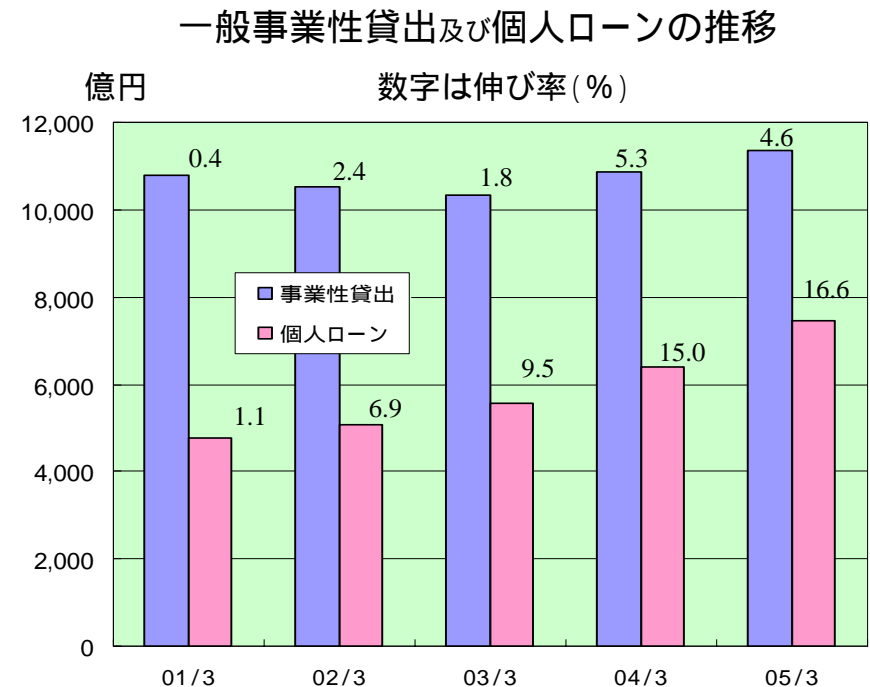
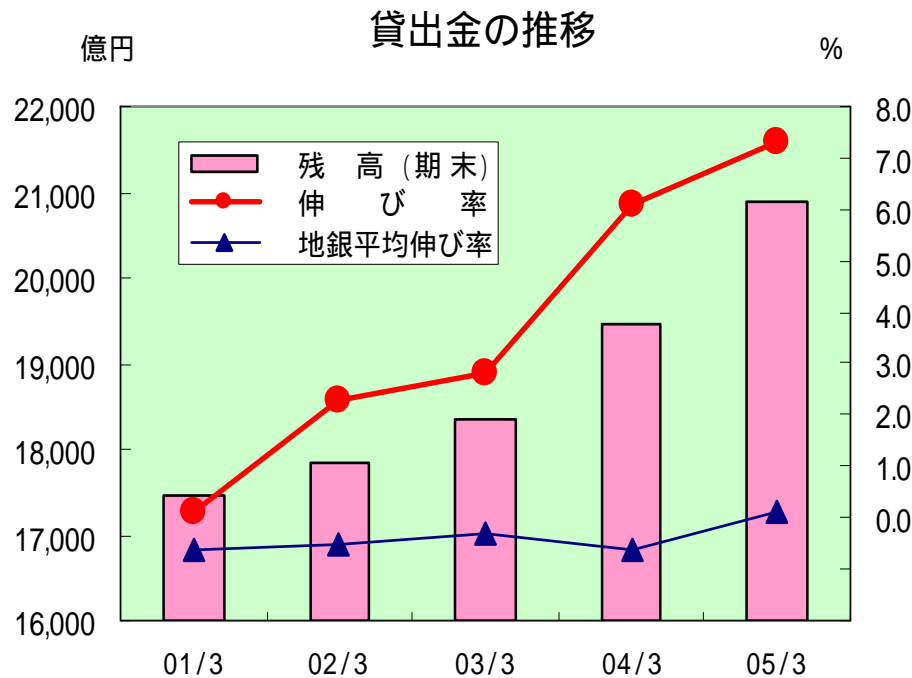


# 貸出金の推移 ~ 貸出金は、持続的拡大傾向へ ~

## ■ 貸出金の増加率は、地銀平均を大きく上回って推移

(億円、%)

項目	01/3	02/3	03/3	04/3	05/3
残高(期末)	17,459	17,853	18,355	19,476	20,896
伸び率	0.1	2.3	2.8	6.1	7.3
地銀平均伸び率	0.6	0.5	0.3	0.7	0.1



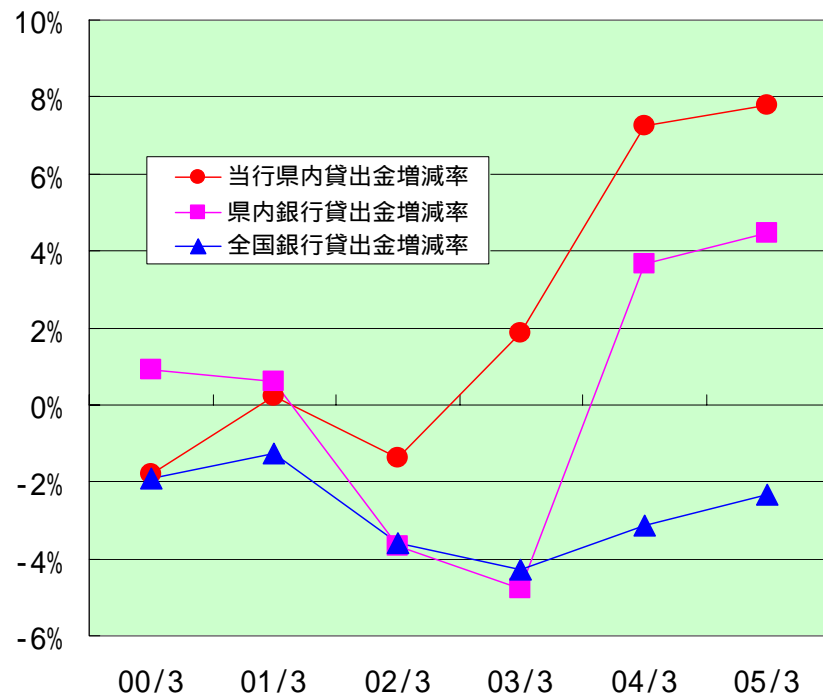


# 貸出金の推移 ~ 拡大する県内銀行の貸出金の伸びを更に凌駕 ~

## ■ 県内銀行貸出金増減率及び県内金融機関貸出金残高シェア

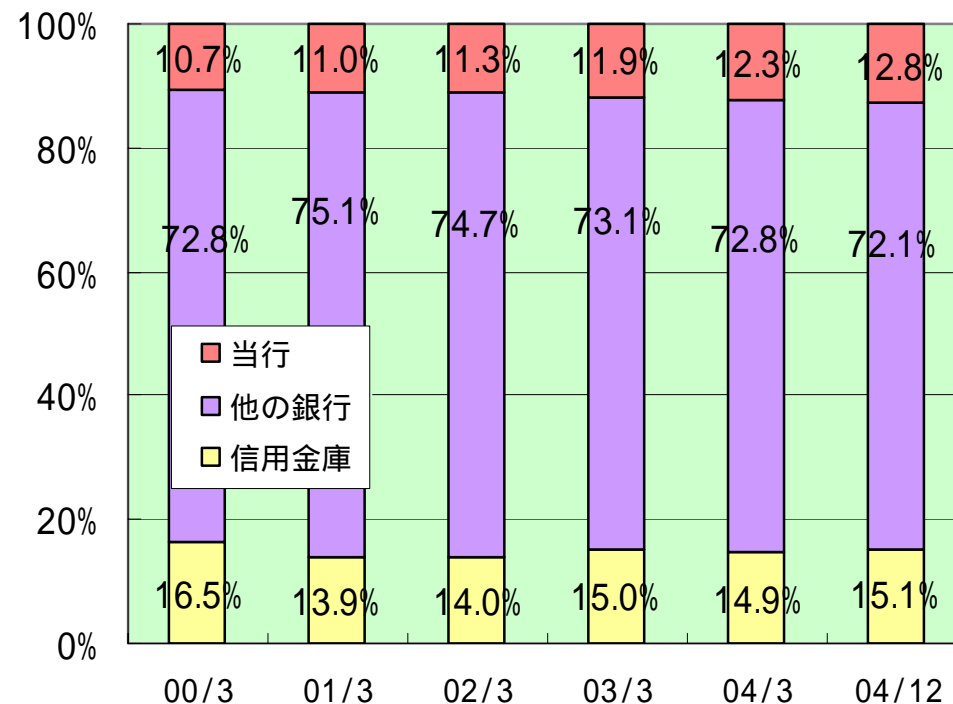
- 埼玉県内の貸出金増減率は、この2年間、全国銀行平均を上回っているが、当行は、それを更に上回る伸びを持続。
- この結果、当行の県内金融機関貸出金に占めるシェアは、着実に上昇。

銀行貸出金増減率の推移



出所：日本銀行 他

県内金融機関貸出金シェアの推移



出所：日本銀行、信金中金（信組、労金、農協を除く）



# 預金等の推移 ~ 広義の調達（預金 + 預り資産）は好伸 ~

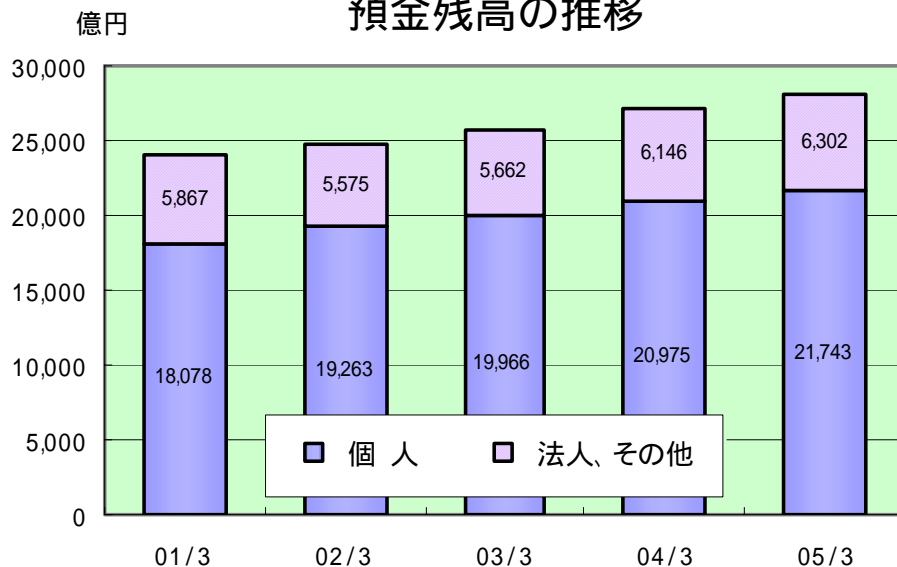
## ■ ペイオフ全面解禁を控えていたにも拘わらず、預金、預り資産も順調に増加

< 預金等の推移 >

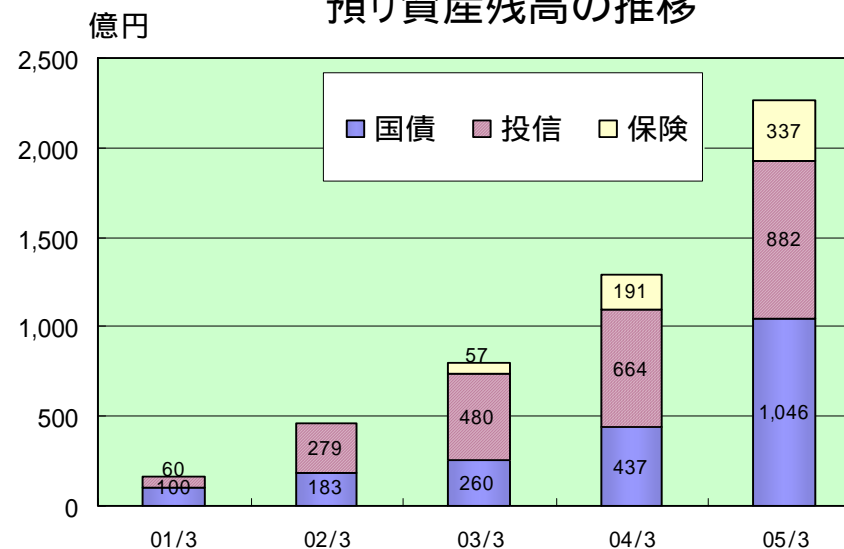
(億円、%)

項目	01/3	02/3	03/3	04/3	05/3
預金残高(期末)	23,945	24,838	25,628	27,121	28,045
当行預金伸び率	3.8	3.7	3.2	5.8	3.4
地銀平均伸び率	1.0	1.7	0.0	0.0	1.6
預り資産残高	160	462	797	1,292	2,265
預り資産伸び率	272.1	188.8	72.5	62.1	75.3
預金・預り資産の合算伸び率	(4.3)	(5.0)	(4.4)	(7.5)	(6.7)

預金残高の推移

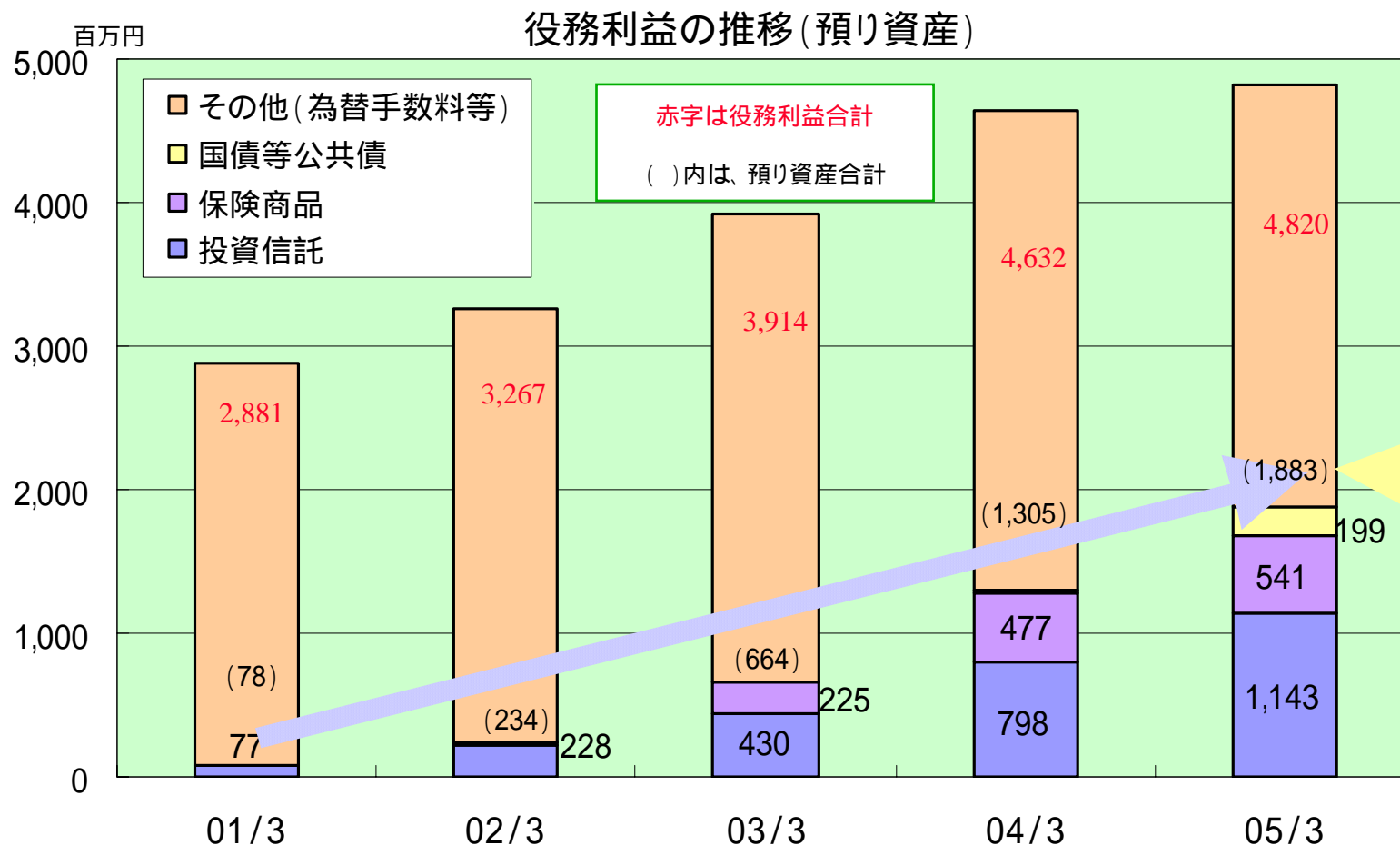


預り資産残高の推移



## ◎ 役務利益の推移 ~ 預り資産は、収益の柱に成長 ~

- お取引先の資産運用ニーズの多様化に対応したことにより、投信など預り資産収益の伸びは順調

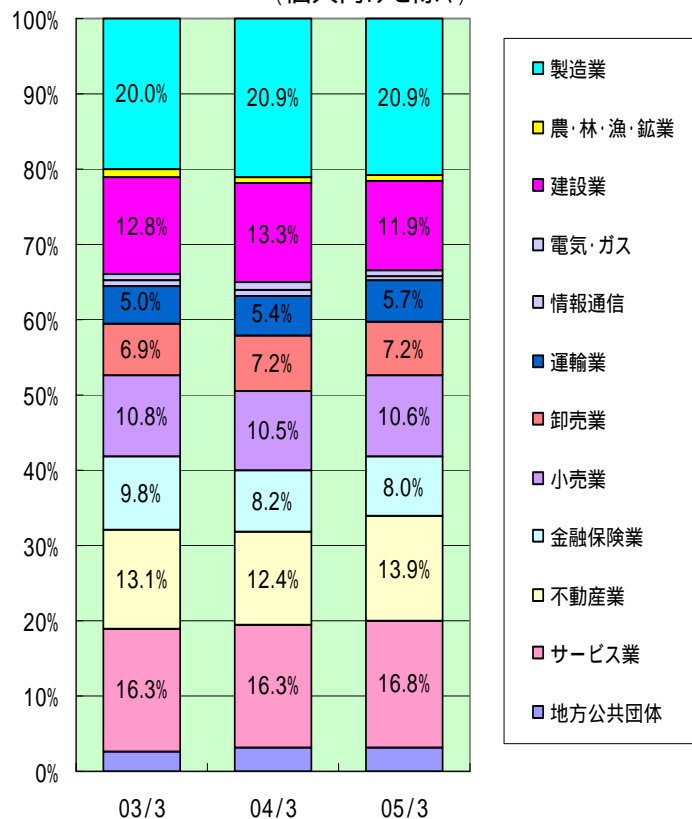


# 貸出金の状況 ~ リスク分散に配慮した貸出構成 ~

- 貸出金の構成は業種別にバランス、地方銀行平均との比較では、製造業の割合が相対的に高い
- 大口先への与信集中度合いは地銀平均を大きく下回る水準

業種別貸出金構成割合の推移

(個人向けを除く)

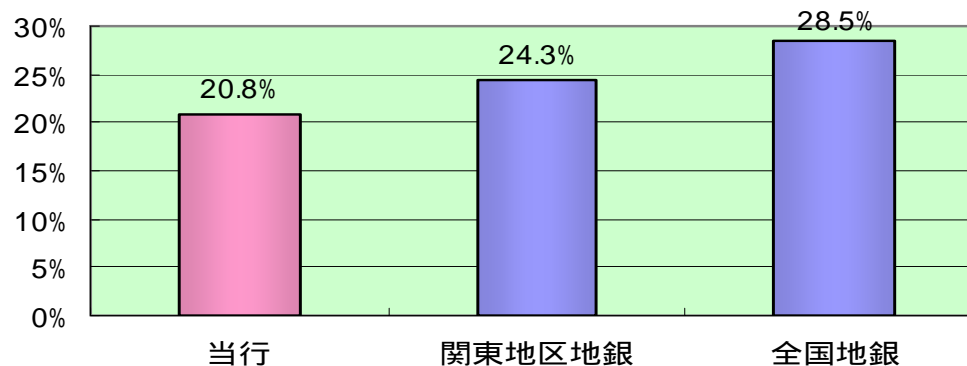


業種別構成割合の地方銀行平均との比較(05/3)

	当行	地方銀行	比較
製造業	20.9%	17.3%	3.6%
農業・林業・鉱業	0.7%	1.0%	-0.3%
建設業	11.9%	9.1%	2.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	0.8%	1.0%	-0.2%
情報通信業	0.4%	0.8%	-0.4%
運輸・倉庫業	5.7%	3.9%	1.8%
卸売	7.2%	9.6%	-2.4%
小売	10.6%	8.5%	2.1%
金融・保険業	8.0%	6.4%	1.6%
不動産業	13.9%	13.2%	0.7%
各種サービス業	16.8%	18.7%	-1.9%
地方公共団体	3.2%	10.3%	-7.1%
計	100.0%	100.0%	

個人向けを除く単純平均

大口先(上位100社)への与信の集中状況(04/12)



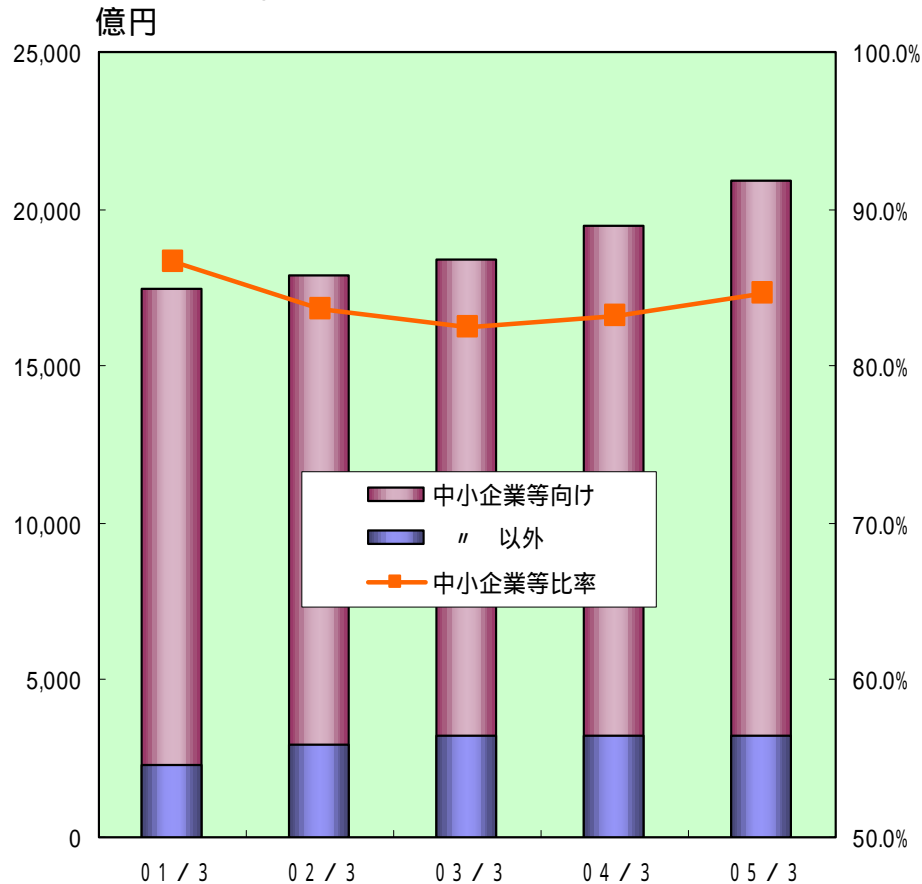


# 貸出金の状況

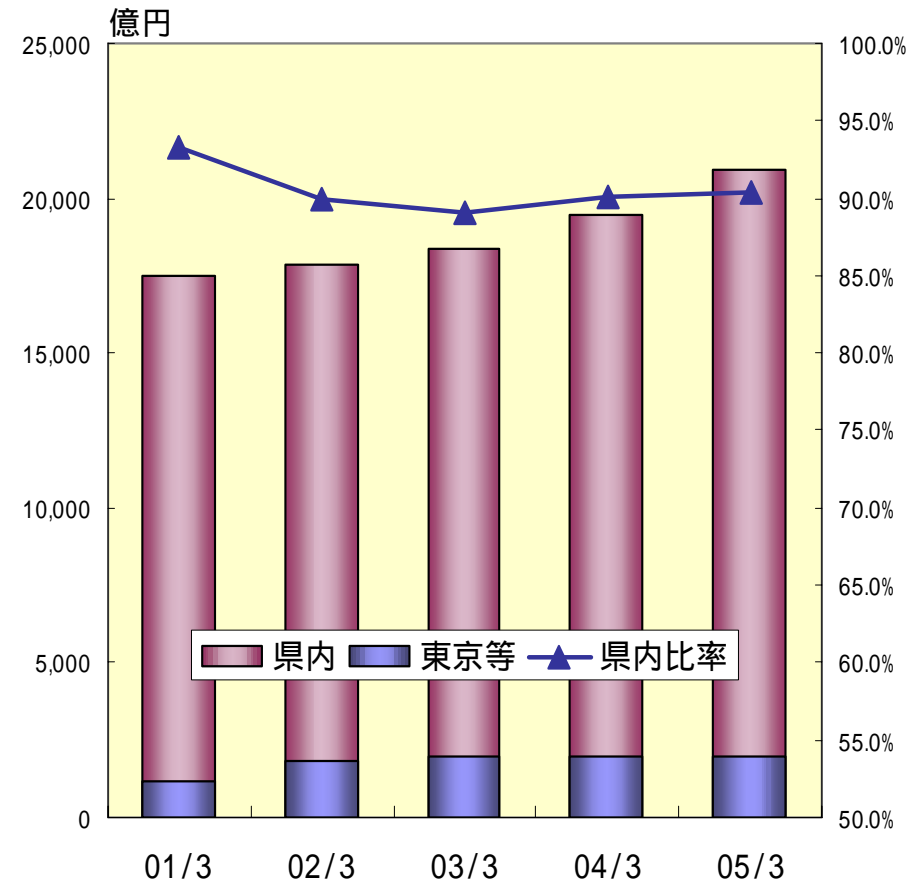
## ～地元中小企業向け金融に注力～

### ■ 貸出金の増加は、地元の中小企業向けや個人向けが中心

中小企業向け等貸出金の推移



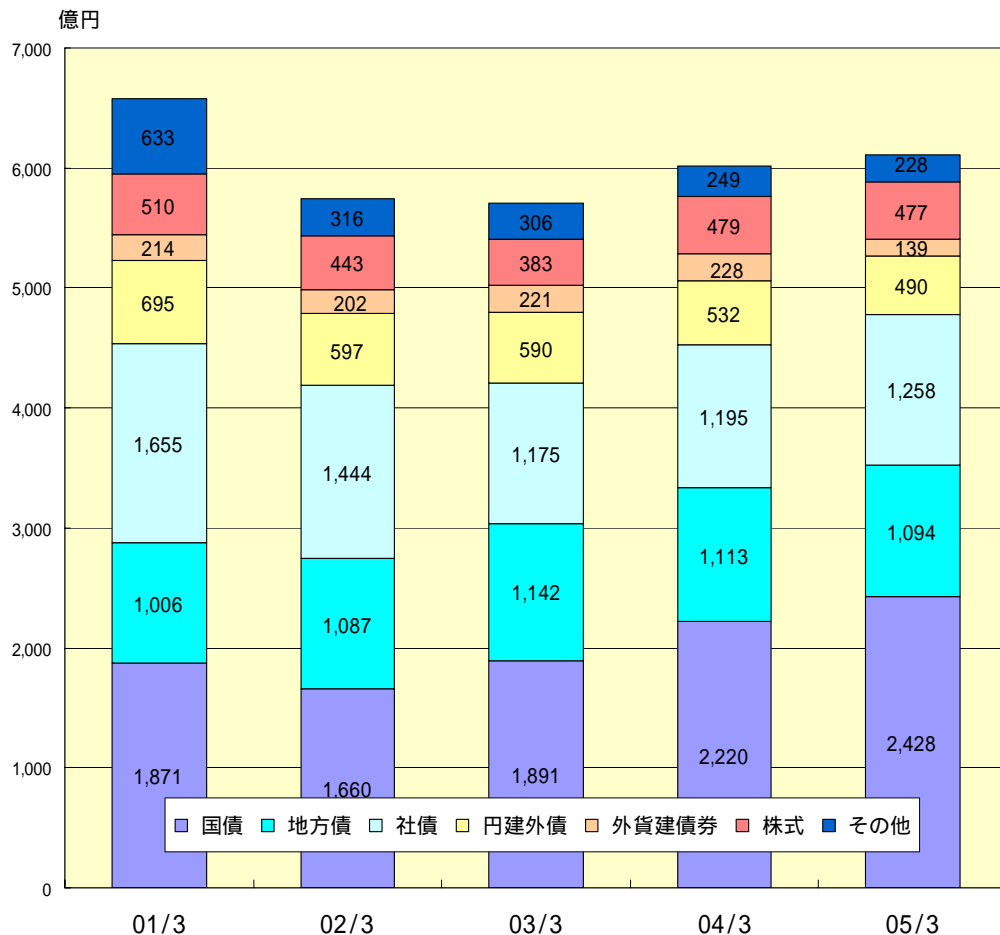
県内取引先向け貸出金の推移



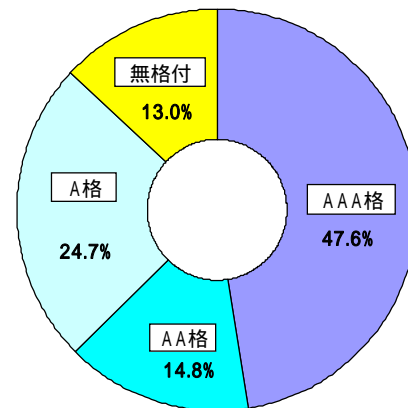
# 保有有価証券の状況 ~ 高い健全性を維持 ~

## 信用リスクや金利リスクを抑制したポートフォリオの構築

有価証券残高の内訳推移 (時価)



事業債と外国証券の格付別内訳 (05/3)

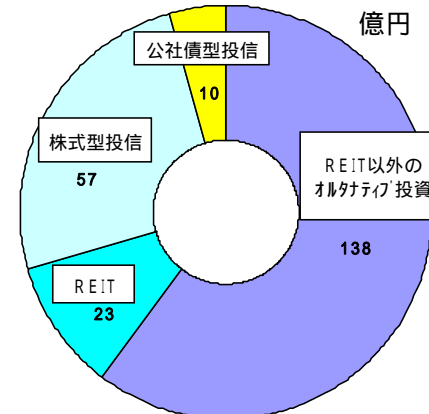


・厳格な投資基準 (格付別・期間別の累積デフォルト率1%以内) により、信用リスクのある債券は高格付債に限定

< 時価残高 >

円貨事業債 296億円  
 外国証券 629億円  
 (うち外貨建 139億円)

その他の証券の種類別内訳 (05/3)

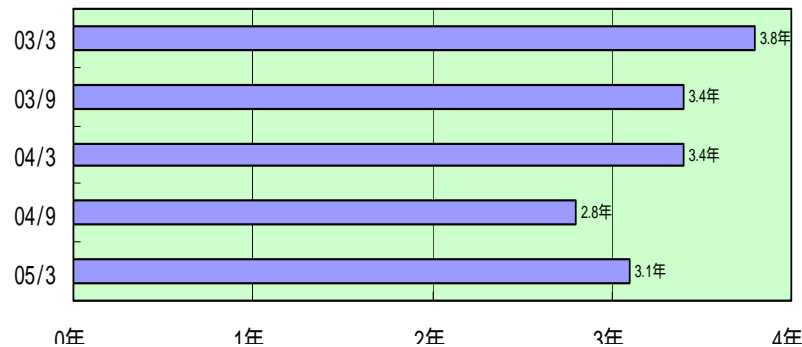


・その他証券 (228億円) のうち、約70%にあたる161億円をREITなどのオルタナティブ投資が占め、運用効率の向上・リスク分散を実施

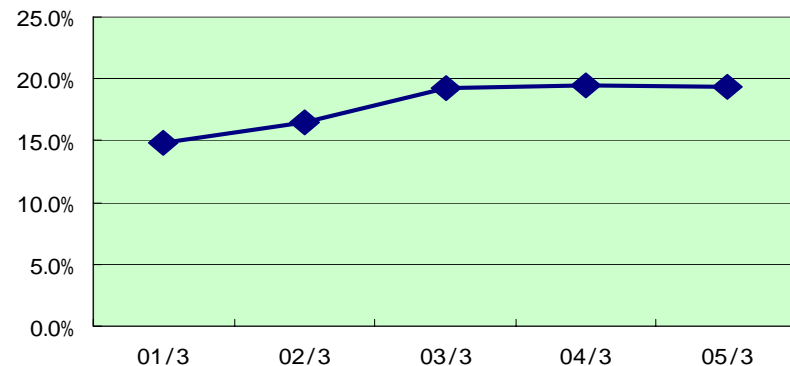
# 保有有価証券の状況 ~ 利回りは下げ止まり ~

- 金利上昇リスクに配慮した柔軟な運用姿勢
- 近年の有価証券利回りの低下幅は地銀平均を大きく下回り、このところ低下傾向に歯止め

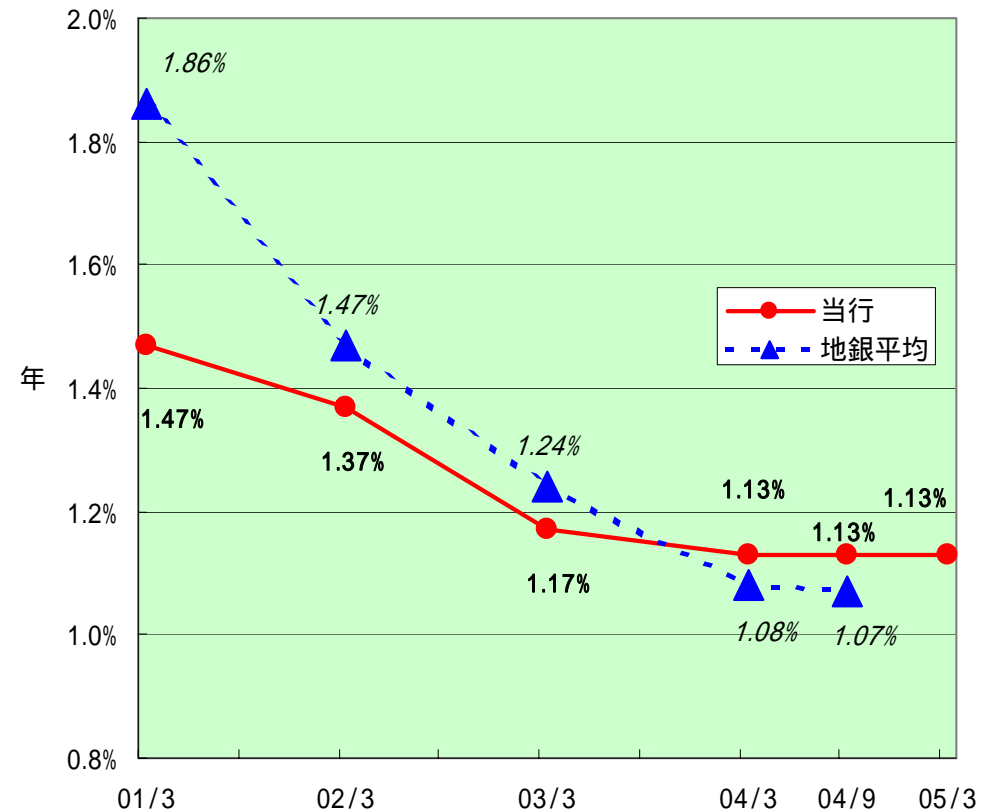
債券デュレーションの推移



変動利付債の構成比

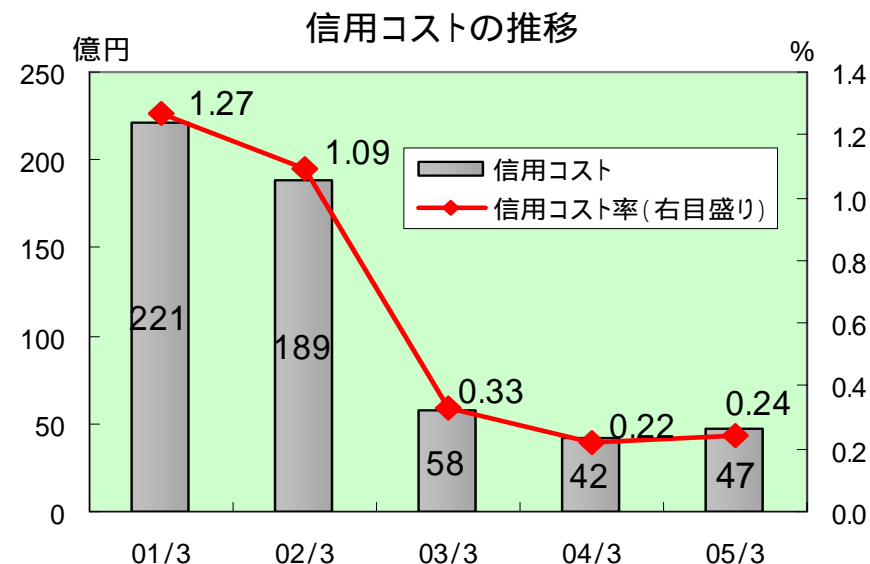
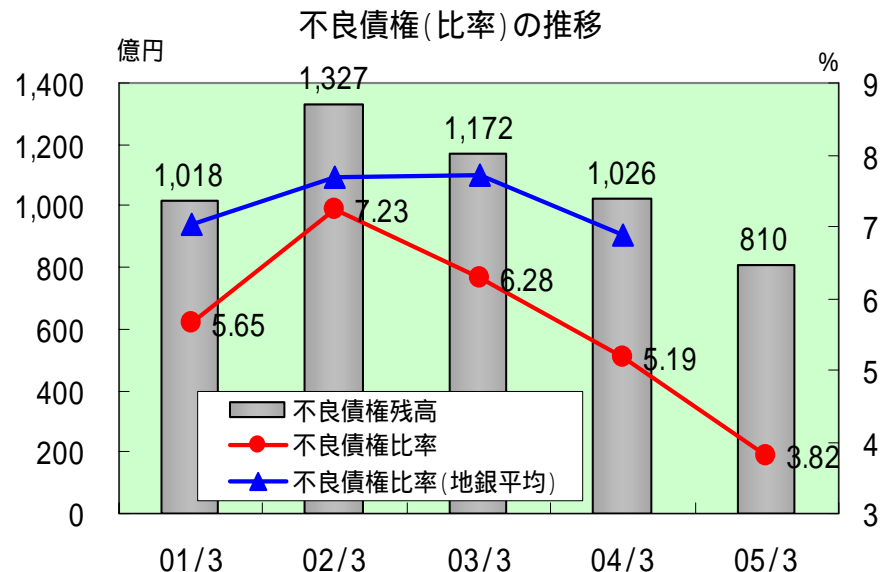


国内部門有価証券利回りの推移



# 不良債権の状況 ~ 不良債権問題は完全にピークアウト ~

## ■ 過年度の前倒し処理の効果で信用コスト率も低位で推移



## 不良債権の保全状況

	債権額 (A)	担保・保証 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (B + C) / A
破産更生債権	153	136	16	100.0%
危険債権	361	232	83	87.6%
要管理債権	295	164	25	64.0%
合計	810	532	126	81.3%

## < 参考 >

04 / 9期

保全率		構成比	
当行	地銀平均	当行	地銀平均
100.0%	100.0%	19.0%	20.7%
88.4%	86.7%	47.4%	47.7%
61.0%	60.9%	33.6%	31.6%
81.4%	81.3%	100.0%	100.0%



# △ 企業再生支援の状況 ~ 格付ランクアップも資産の健全化に寄与 ~

## ■ 本支店一体となった経営支援の取組みにより、多数のランクアップが実現

【経営改善支援先に対する債務者区分のランクアップ】

	03 / 4 ~ 04 / 3	04 / 4 ~ 05 / 3	03 / 4 ~ 05 / 3
対象先数	594	669	780
ランクアップ先数	143	185	328
ランクアップ比率	24.0%	27.6%	42.0%

【05 / 3期中1年間の要管理先以下の格付遷移】

<先数ベース>

(社、%)

債務者区分の遷移		05年3月期(内訳)					ランクアップ	
04年3月期		ランクアップ	不変	ランクダウン	回収等	合計	率	率(回収合算)
破綻先	92	14	19		59	92	15.2	79.3
実質破綻先	380	10	226	4	140	380	2.6	39.5
破綻懸念先	748	32	567	28	121	748	4.3	20.5
要管理先	636	203	252	43	138	636	31.9	53.6
計	1,856	259	1,064	75	458	1,856	14.0	38.6

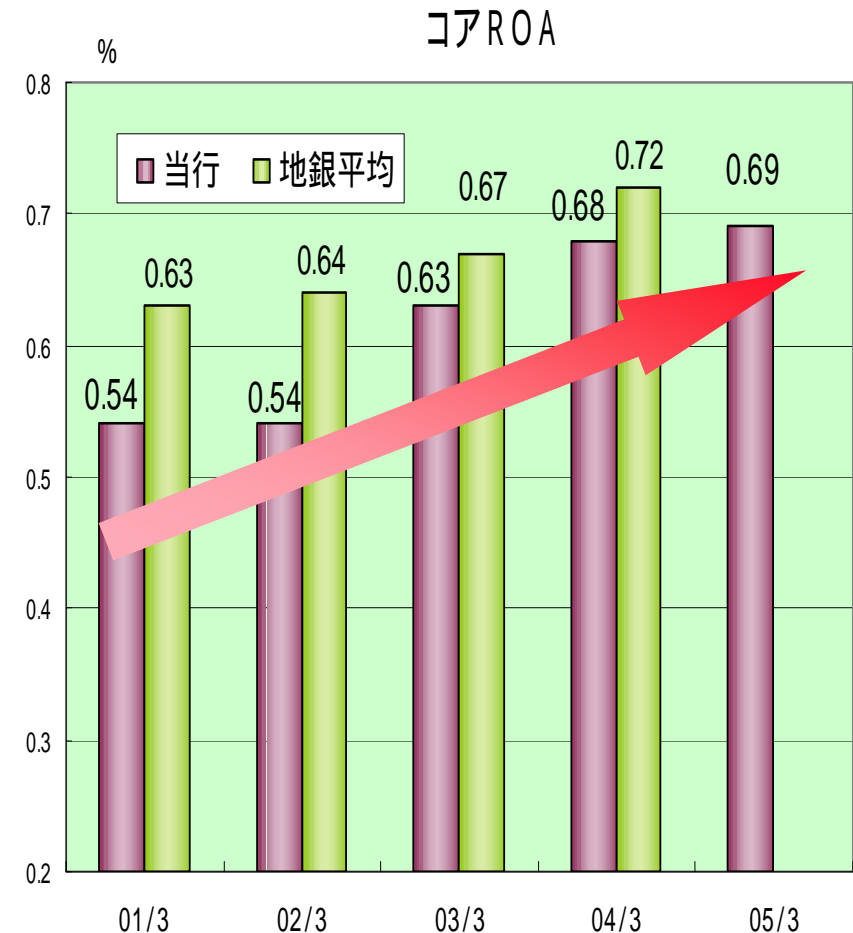
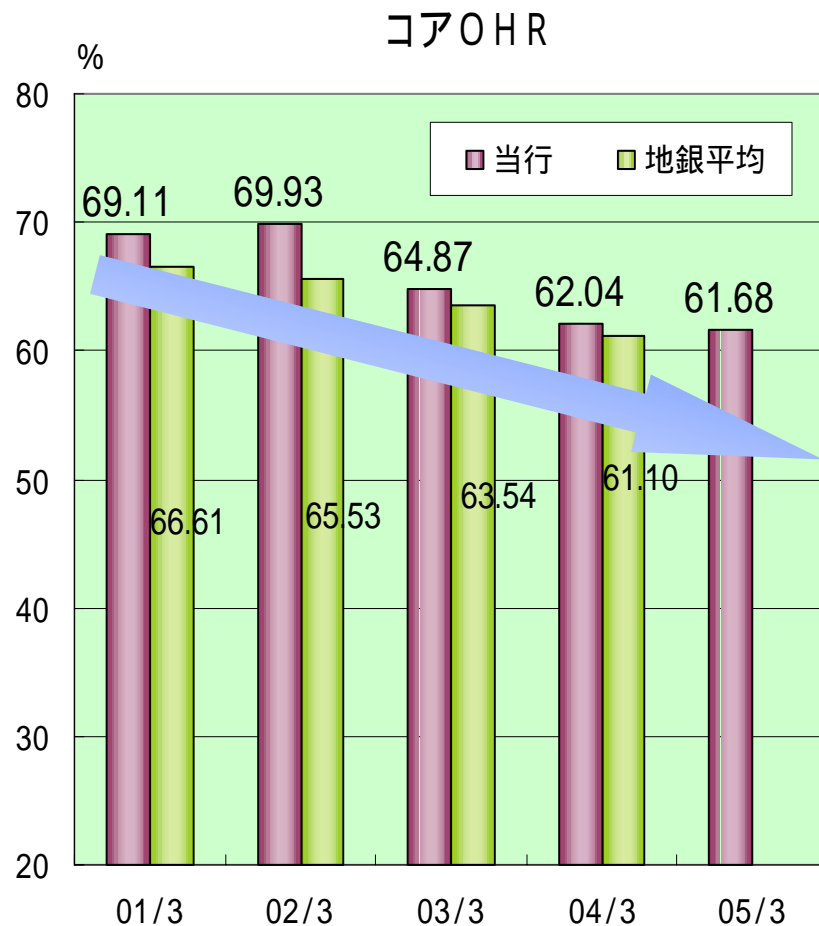
<金額ベース>

(億円：%)

債務者区分の遷移		05年3月期(内訳)					ランクアップ	
04年3月期		ランクアップ	不変	ランクダウン	回収等	合計	率	率(合算)
破綻先	37	8	7	0	21	37	22.4	79.8
実質破綻先	152	3	87	3	59	152	1.9	40.9
破綻懸念先	463	48	295	23	96	463	10.3	31.1
要管理先	706	180	301	41	183	706	25.6	51.6
計	1,357	239	690	67	360	1,357	17.6	44.2

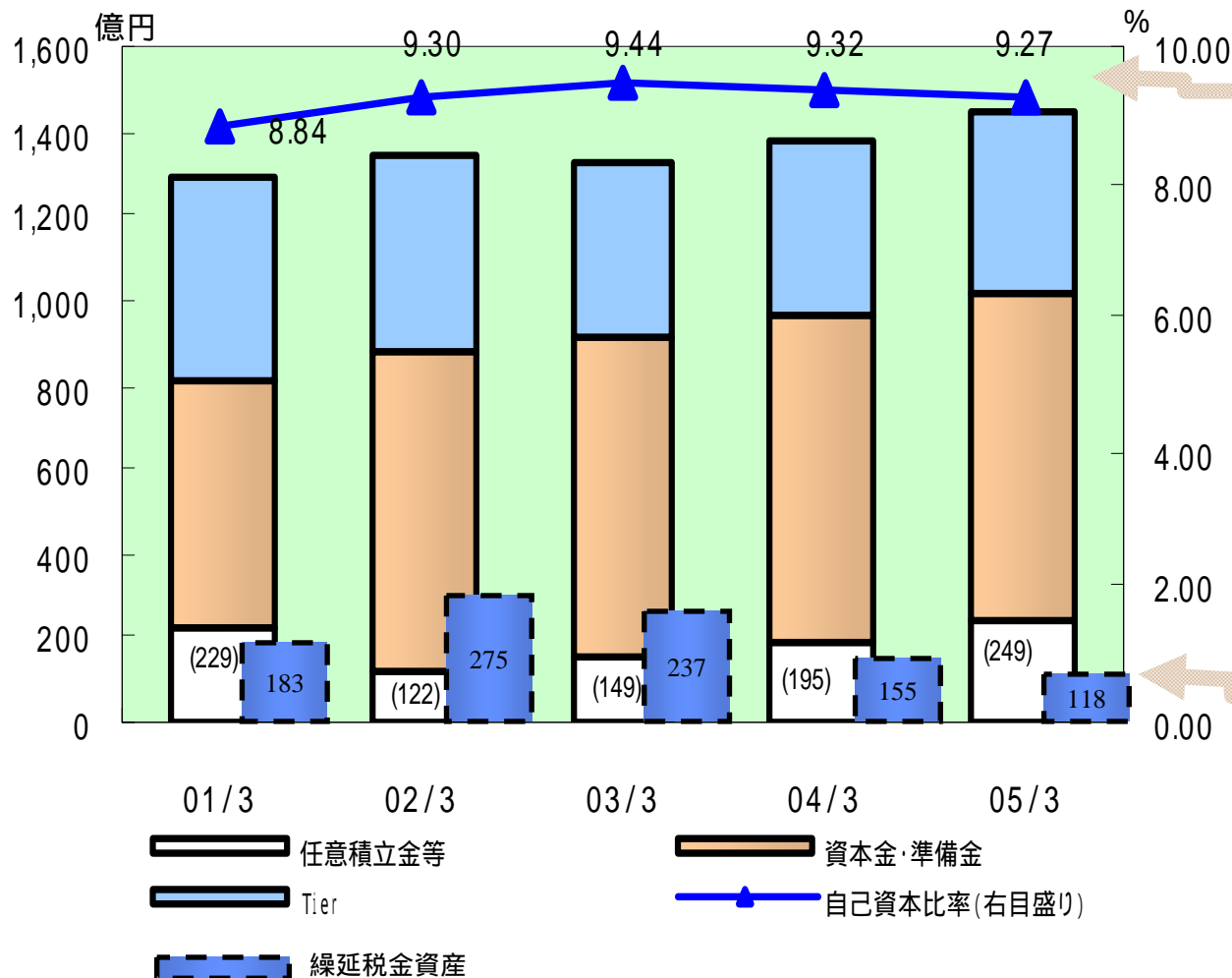
## 経営効率の状況 ~ 地銀平均との格差縮小 ~

### ■ 本業部門の収益力の向上から、経営指標の改善傾向が継続



# 資本の状況 ~ 優良貸出の増強に自己資本を有効活用 ~

## ■ 内部留保の積み上げにより、自己資本の絶対額は、1,438億円に増加



04/3比で自己資本比率が0.05%低下した要因

・リスクアセットの増加に伴う影響 0.43%

・利益の積上げに伴う効果 +0.38%

繰延税金資産は Tier1 (中核的自己資本) の 11.6%まで圧縮

# ぶぎんグループの状況 ~ 連結ベースでも過去最高益を3年連続更新 ~

## ■ 連結8社、個社別の経常・当期純利益も、3年連続で全社黒字を計上

### 1. 連結対象会社・・・8社

#### ぶぎんグループ

(株)武蔵野銀行

ぶぎんビジネスサービス(株)	ぶぎんビルメンテナンス(株)	ぶぎん保証(株)	ぶぎん総合リース(株)
むさしのカード(株)	ぶぎんシステムサービス(株)	(株)ぶぎん地域経済研究所	(株)ぶぎんキャピタル

### 2. 連結決算の概要

(百万円、カッコ内は、連単倍率%)

項目	04/3期	05/3期	前年比
経常収益	72,937 (118.09)	75,200 (118.00)	2,263
経常利益	13,313 (106.11)	16,276 (109.63)	2,963
当期純利益	6,216 (101.45)	8,631 (107.12)	2,415
自己資本比率(%)	9.33	9.34	0.01



## 第2章 中期経営計画「JUMP UP 21」の進捗状況

# 計数目標の達成度 ~ 中計初年度として順調な滑り出し ~

## ■ 預貸金及び預り資産は、計画を上回るペースで順調に増加

### 2004年3月期実績

貸出金平残	18,714億円
事業性貸出金平残	10,496億円
個人ローン平残	5,908億円
預金平残	26,488億円
預り資産残高	1,292億円
法人貸出先数	18,675先

コア業務純益	197億円
自己資本比率	9.32%
コアROA	0.68%
コアOHR	62.04%
不良債権比率	5.19%
配当可能原資	195億円

### 2005年3月期 実績

20,006億円	43.1%
11,013億円	51.7%
6,844億円	44.6%
27,485億円	33.2%
(販売額)	
1,120億円	50.9%
19,033先	27.0%

### 達成率

### 2007年3月期目標

21,714億円以上
11,496億円以上
8,008億円以上
29,488億円以上
(3年間販売額合計)
2,200億円
20,000先以上

206億円	230億円以上
9.27%	9.50%以上
0.69%	0.70%以上
61.68%	60.00%未満
3.82%	3.00%未満
249億円	380億円以上

## △ 収益の状況 ~ 中計目標達成に向け順調な1年目 ~

- 資金利益の上乗せにより、「JUMP UP 21」のコア業務純益計画(1年目)をクリア
- 最終利益は、当初計画を10億円上回り、内部留保の拡大に寄与

(億円)

	04/3期	中期経営計画 1年目			
		計画 05/3期	実績		
			05/3期	前年比	計画比
事業性貸出利息	232	237	235	3	2
個人ローン利息	141	154	156	15	2
有価証券利息その他	88	79	87	1	8
資金利益計	461	470	478	17	8
役員利益	46	52	48	2	4
その他	12	12	12	0	0
経費( )	322	331	332	10	1
<b>コア業務純益</b>	<b>197</b>	<b>203</b>	<b>206</b>	9	3
信用コスト( )	42	50	47	5	3
その他(5勘定、3勘定ほか)	29	23	11	18	12
経常利益	125	130	148	23	18
当期純利益	61	70	80	19	10

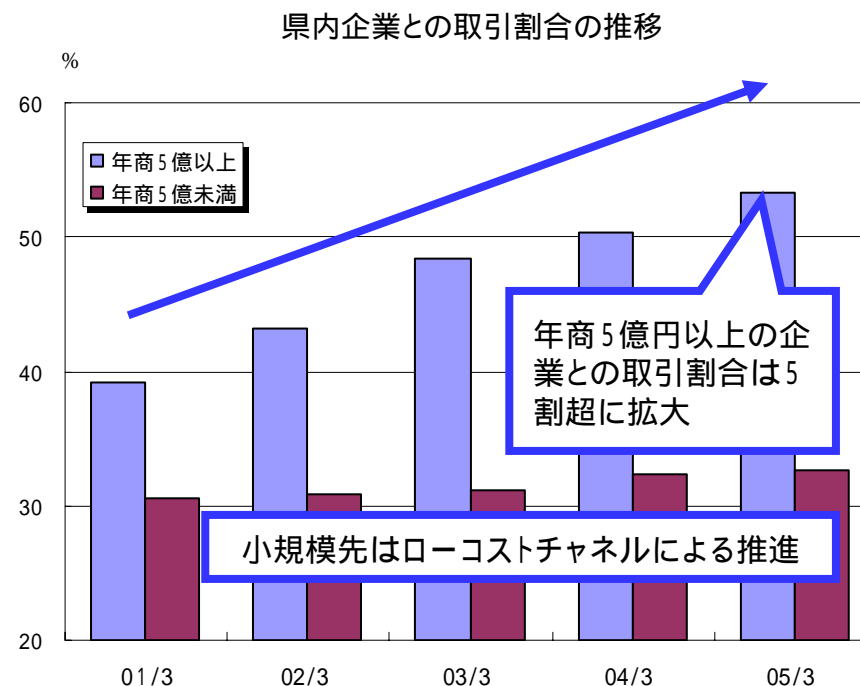
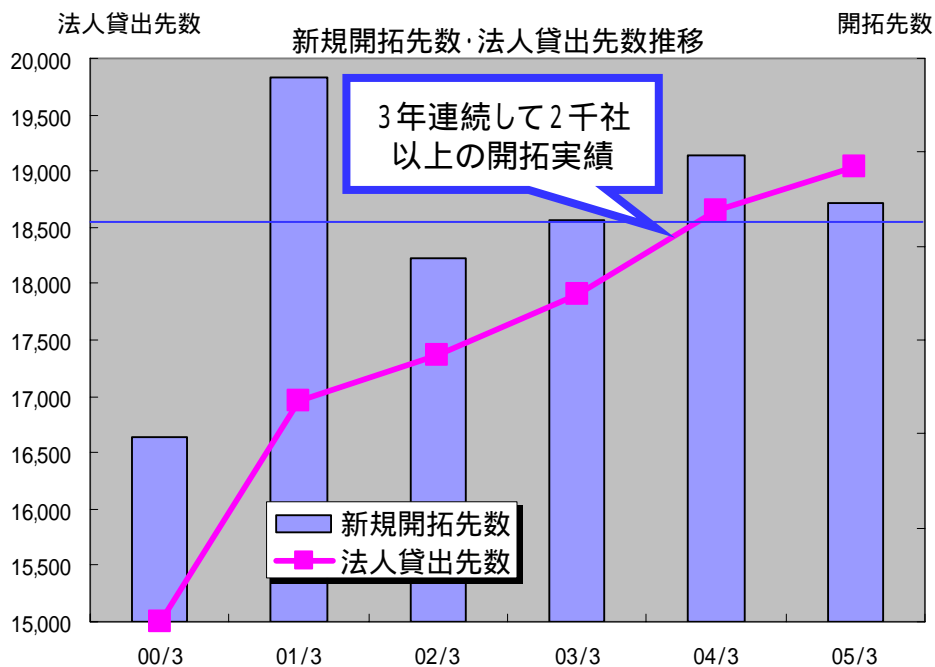


# 法人戦略の状況 ~ 当行の法人基盤は着実に拡大 ~

## ■ 新規開拓ブロックを中心とした新規開拓活動

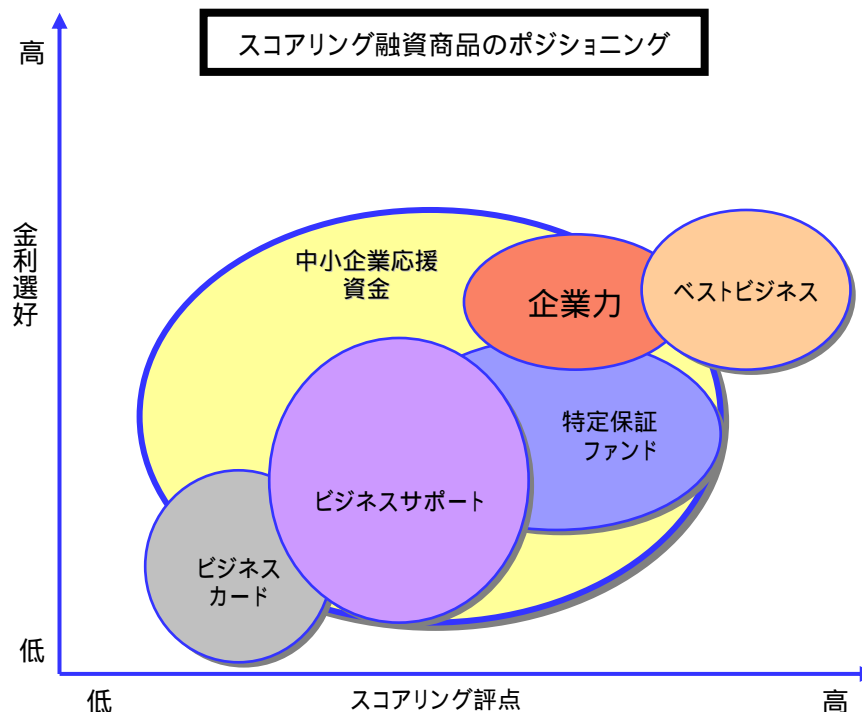
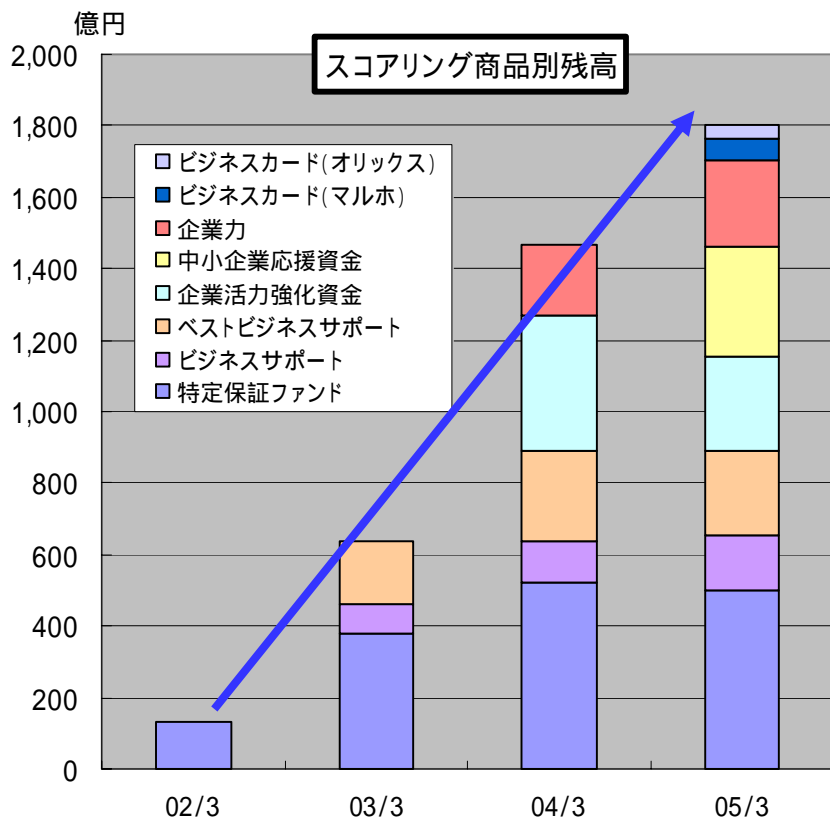
- ・ 毎年、2千社以上の開拓実績
- ・ 中計目標の法人貸出先数2万社体制が射程圏内に

## ■ メインターゲットである年商5億円以上の県内企業との取引割合は5割以上へと、順調に拡大



## 法人戦略の状況 ~ スコアリング商品の充実 ~

- スコアリング高度化による無担保・第三者保証人不要な融資への取組みとミドルリスクミドルリターン層の拡大
- 様々な顧客セグメントに合わせ、商品ラインナップを拡充



# 個人ローン戦略の状況 ~ 住宅ローンセンターを中心としたローンの増強 ~

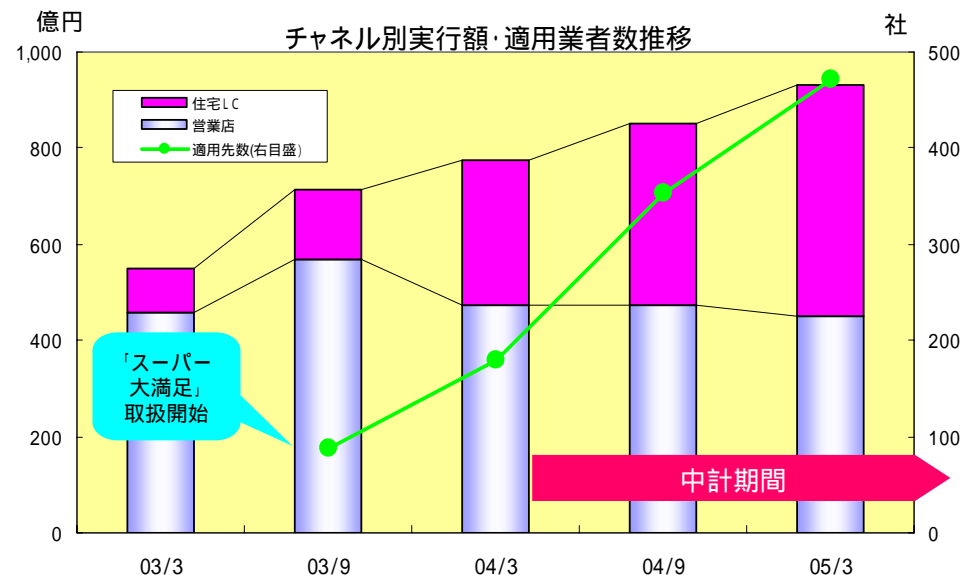
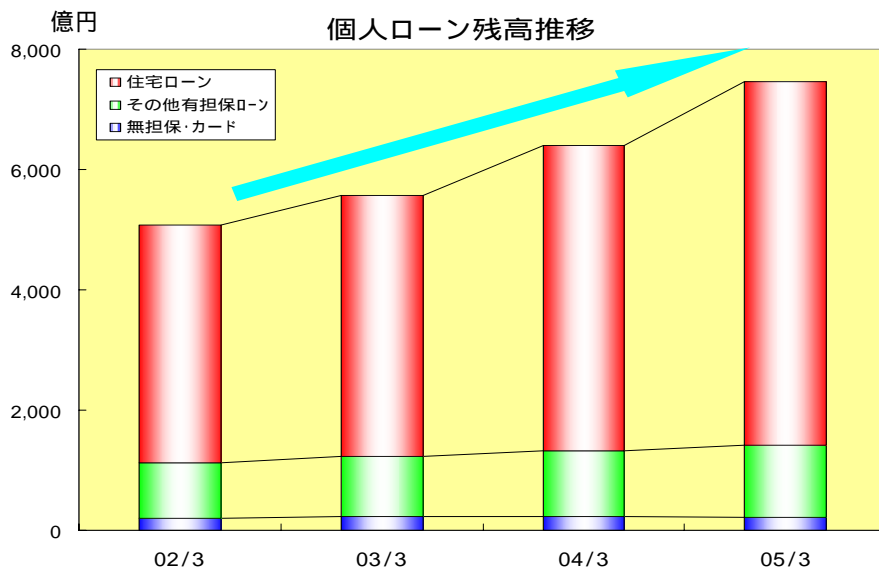
## ■ 住宅ローンセンターは営業店を上回る取扱い実績

住宅ローン推進の中核となるセンターの取扱いは順調に増加

- ・ 04年7月、大宮西口住宅ローンセンター新設（全8センター）
- ・ 同年10月、土曜営業を全センターにて本格展開（顧客利便性の向上）
- ・ 05年4月、川口住宅ローンセンター新設（全9センター）

## ■ ハウスメーカー等住宅業者との連携は着実に成果

住宅業者専用商品「スーパー大満足」の適用先数は順調に増加



# 個人ローン戦略の状況 ~ 業者、顧客ニーズに的確に対応 ~

## ■ 住宅業者専用商品「スーパー大満足」の推進

簡素な手続き・事前申込制・諸費用を含めた借入が可能など、住宅業者・顧客双方のニーズに合致した商品の充実

## ■ 差別化商品「がん保障特約付き住宅ローン」を積極的に推進

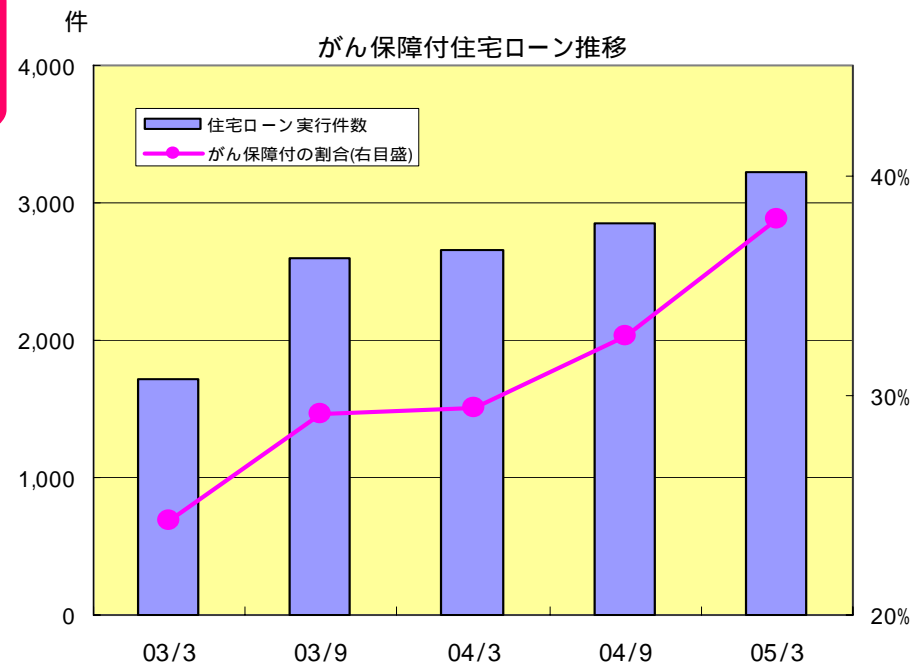
一般住宅ローンに比べて金利が高目ながら、新規住宅ローン実行件数の4割近くを占める  
 ・05年3月、省エネ住宅向けの「エコハウスローン」の取扱い開始

(主な住宅ローン商品ラインナップとターゲット)

商品名	ターゲット
スーパー大満足	当行指定の住宅業者の住宅を購入・建築する顧客 住宅ローンセンターのみ取扱い
大満足アルファ	営業店申込の優良顧客
輝家姫	働いている女性 失業リストラ保険付帯
保留地ローン	区画整理地域内の住宅を購入・建築する顧客
エコハウスローン	省エネなど環境に配慮した住宅を購入・建築する顧客
借換SP	他行高金利住宅ローンの借換
住宅応援ローン	勤続年数・年収など一般住宅ローンでは対象とならない顧客

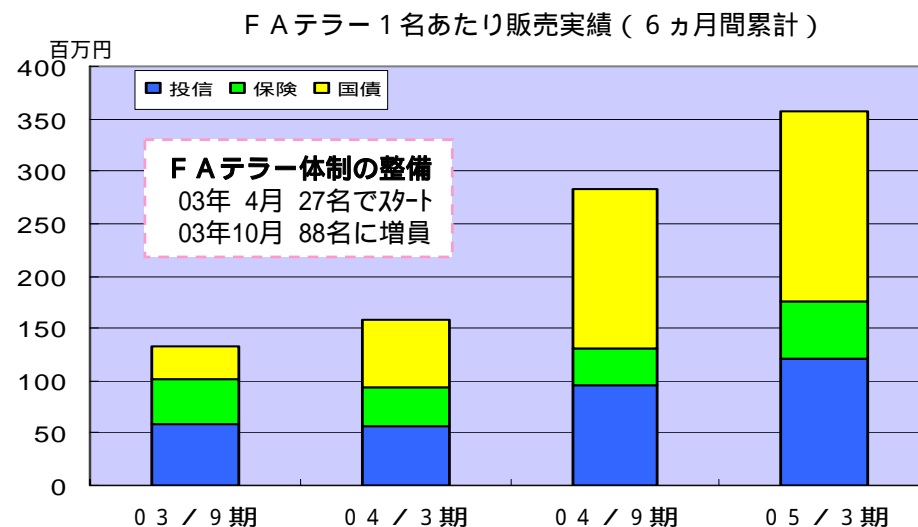
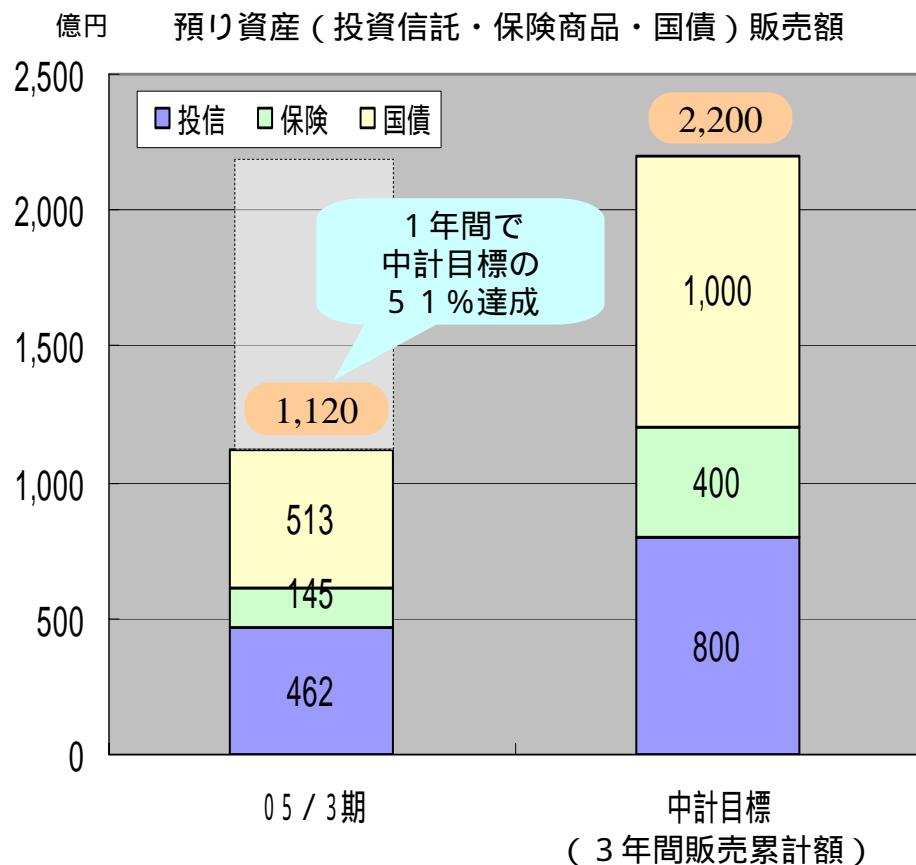
発売開始2年弱で  
住宅ローン残高の  
26.6%を占める

がん保障は、「フラット35」以外の商品に付保可能



## 預り資産戦略の状況 ~ 好調な販売実績 ~

- 顧客ニーズ(資産運用、ペイオフ対策等)を的確に捉えた提案セールスの実施
- 88店舗に配置した預り資産の販売専担者「FAテラー」の活躍



### FAテラー育成の取組み

集合研修の定期的開催(年間8回開催)

- ・専担者としての意識改革
- ・環境認識の徹底、マーケット感覚の醸成
- ・プレゼンションスキルの向上
- ・情報交換による成功、失敗事例の共有

徹底した目標管理と個別フォローの実施



## 第3章 今期の取組み

## 法人部門の取組み ~ 運用力と収益力の強化 ~

### ■ 事業性貸出金2005年3月末比500億円の増加を計画

- ・ 全店を挙げたシェアアップ活動の徹底
- ・ 新規開拓ブロック制度に「シェアアップ担当者」を配置
- ・ スコアリング商品（スーパーサポート資金等）を中心に推進
- ・ 地域特化プロジェクトで事業性貸出金増強
- ・ 情報提供、相談機能の充実と合わせた高付加価値融資の推進

### ■ 今年度も2千社の新規開拓を目標、取引先2万社体制が視野に

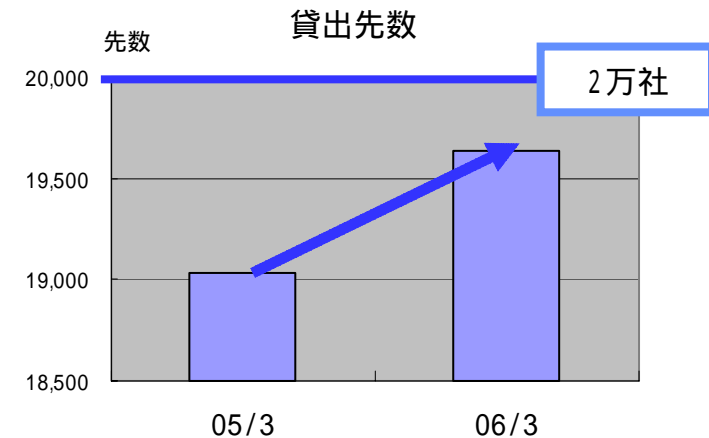
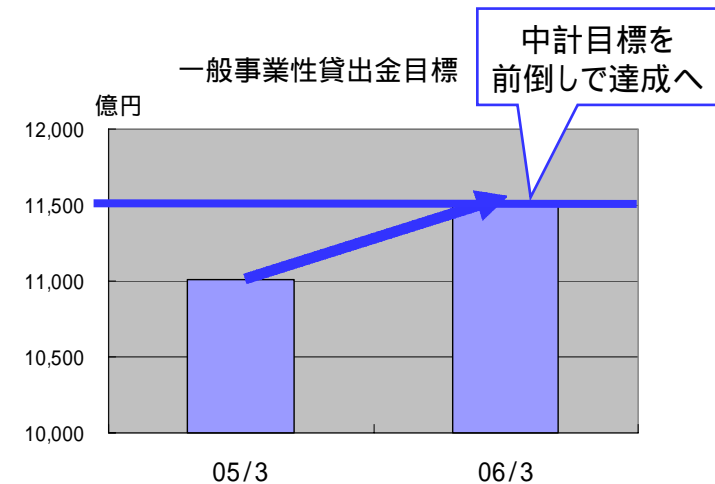
< 業種別新規開拓制度の導入 >

- ・ 医療福祉分野（05年4月活動開始）

県内医療法人数1,704先（全国6位）  
特別養護施設の増加（8,500床の増加計画）

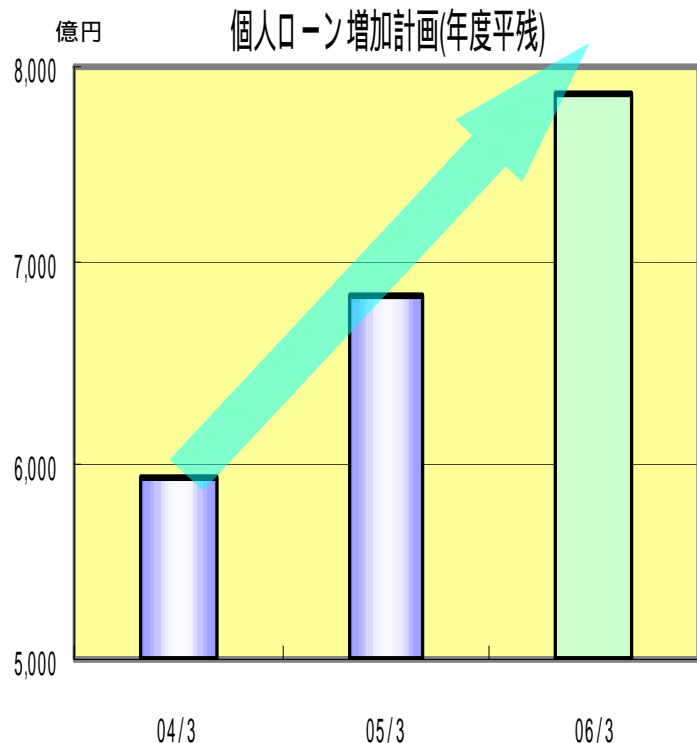
### ■ ストラクチャードファイナンス業務の取組強化

- ・ 一括決済業務による新たな収益拡大
- ・ シンジケートローンのアレンジャー業務による収益力強化
- ・ ノンリコースローンへの積極的な取組みによる利回りアップ





## 個人ローン部門の取組み ~ 新規住宅ローン市場への取組み強化 ~



### < 主な施策 >

- **住宅ローンセンターの拡充、センター要員の増強**
  - ・川口住宅ローンセンター新設(4月)
  - ・センター要員を85名から101名に増員(パート等含む)
- **住宅ローンセンター土曜営業体制の拡充**
  - ・土曜営業のメリットを活かし、給与所得者層を住宅ローンセンターに誘導
- **新商品の投入、差別化商品の推進 等**
  - ・環境配慮型住宅向け「エコハウスローン」取扱開始(05年3月)
  - ・「がん保障特約付き住宅ローン」の積極推進
  - ・既存商品の改定 等

### 県内は全国有数の住宅ローン市場

- ・新設住宅着工戸数(貸家含む)73千戸は、東京・神奈川・大阪に次いで全国4位(2005年3月期)
- ・年間着工戸数が2千件以上の地域
  - さいたま市(岩槻区除く)12,859戸、川口市6,279戸、所沢市3,546戸、川越市3,217戸、越谷市2,636戸、上尾市2,615戸、戸田市2,214戸、草加市2,182戸(2003年)

## 預り資産部門の取組み ~ 更なる販売体制の強化 ~

### ■ 今期中に中計目標達成へ(販売目標1,430億円)

#### ・本部専担者「エリアFP」による富裕層への深耕

県内活動対象約2,000先への提案セールス

#### ・窓口専担者「FAテラー」の継続的育成

行員テラーは全て「FAテラー」を指向

#### ・パートによる販売体制の確立

国債・投信販売資格の取得促進

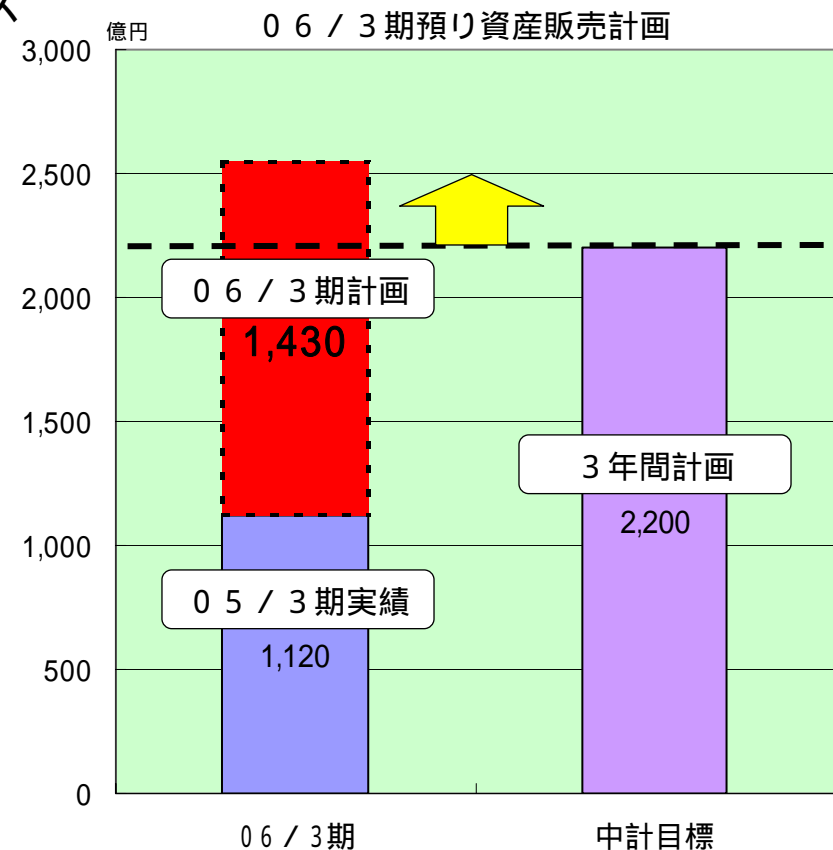
### ■ 証券仲介業への本格参入

#### ・取扱店舗の拡大

今期中に3店舗から18店舗へ

(6/1現在、8店舗)

#### ・行員全員が正会員外務員資格取得へ



# 地域特化プロジェクト ～特定地域に重点を置いた戦略の展開～

## 重点地区に経営資源を傾斜配分し期間限定のプロジェクトを展開

### 熊谷地区 活性化プロジェクト

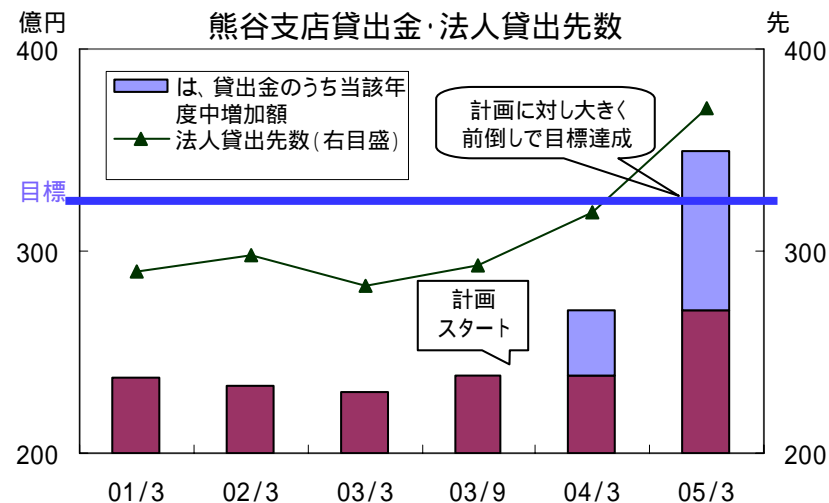
(03年10月～07年3月)

環境：北関東地区地方銀行の攻勢が著しい県北部

狙い：他行攻勢に対する営業地盤の防衛と反攻

重点目標：貸出金100億円増加(増加率42%)

施策：広告活動、外訪人員の増強



### 川口地区 JUMP UP計画

(05年4月～07年3月)

環境：東京に隣接し肥沃な市場である金融激戦区

狙い：金融激戦区における勝ち残りとシェアアップ

重点目標：貸出金450億円増加(増加率45%)

施策：<川口市、鳩ヶ谷市内の複数店舗で展開>

1. 外訪担当者を中心とした人員の増強
2. 住宅ローンセンターの新設
3. 新店舗(東川口支店)の開設
4. 本部支援の強化
5. 広告活動



# 2006年3月期の業績予想 ~ 4期連続最高益更新 ~

- プラス要因：信用コスト(一般貸倒引当金を含む)の減少 47億円 20億円
- マイナス要因：システム共同化に伴う一時的経費増 332億円 342億円

(億円、%)

単体ベース		05/9期予想	前年同期	比較	06/3期予想	前年	比較
業務粗利益	半 期 ベ ー ス	273	261	12	546	526	20
資金収益		244	237	7	488	478	10
役務収益		27	25	2	53	48	5
その他業務利益		2	1	3	5	0	5
経費(臨時費用を除く)( )		175	167	8	342	332	10
実質業務純益		98	93	5	204	193	11
一般貸倒引当金( )		10	2	8	10	7	17
業務純益		108	96	12	214	186	28
コア業務純益		102	100	2	211	206	5
臨時損益		一 期 ベ ー ス	19	21	2	44	38
不良債権処理費用( )	10		17	7	30	39	9
株式等損益	0		2	2	0	13	13
その他	9		6	3	14	11	3
経常利益	ス	89	75	14	170	148	22
特別損益		3	4	1	3	8	5
税引前利益		86	70	16	167	139	28
法人税等及び調整額( )		39	28	11	72	58	14
当期純利益		47	42	5	95	80	15
自己資本比率		9.18	9.12	0	9.20	9.27	0.07

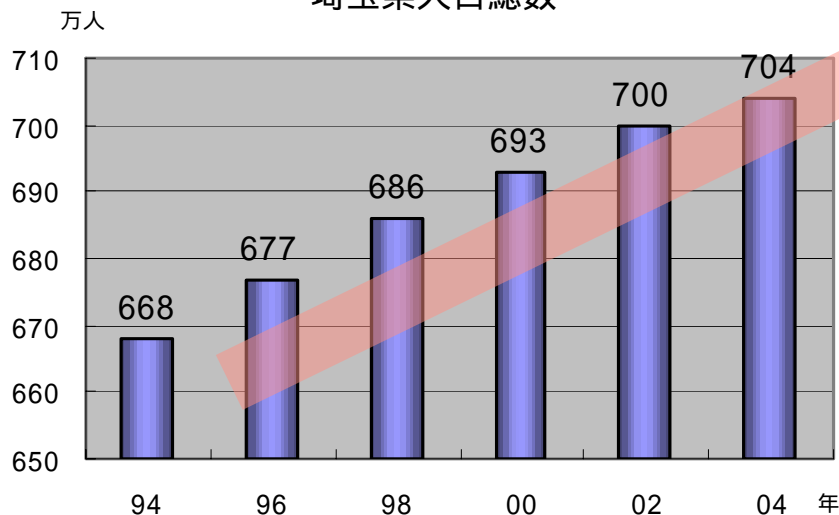
< 連結 / 通期 予想 > ・経常利益 183億円(前年比 + 12.4%) ・当期純利益 100億円(同 + 15.8%)



## < 参考 > 埼玉県と当行

# 埼玉県の特長 ~ 人口規模第5位、全国一若く活力ある県 ~

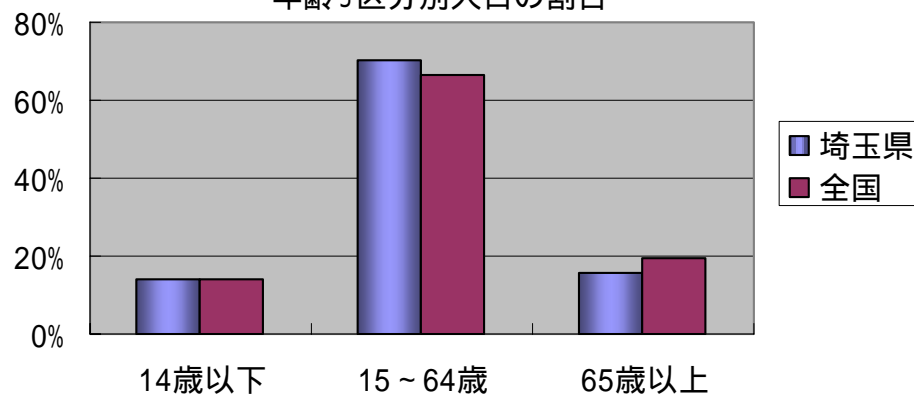
埼玉県人口総数



## ■ 埼玉県の人口

- 当行の主たる営業地盤である埼玉県の人口は、一貫して伸びを続け、現在700万人を上回り、東京、大阪、神奈川、愛知に次ぐ全国で5番目の人口規模。
- さらに、今後においても、「都道府県別の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）」によると、埼玉県は2010年に向け、第4位の伸び率との予想。

年齢3区分別人口の割合



## ■ 働き盛りの人口割合 No.1

- 経済活動の担い手である生産年齢人口（15～64歳）の総人口に占める割合は約70.3%あり、全国で最も高い。また、65歳以上の占める割合は全国で最も低く、まさに、全国一、若く活力のある県といえる。

出所：総務省統計局「平成16年10月1日現在の推計人口」他

## 埼玉県の特長

## ～ 県内産業も全国有数の規模～

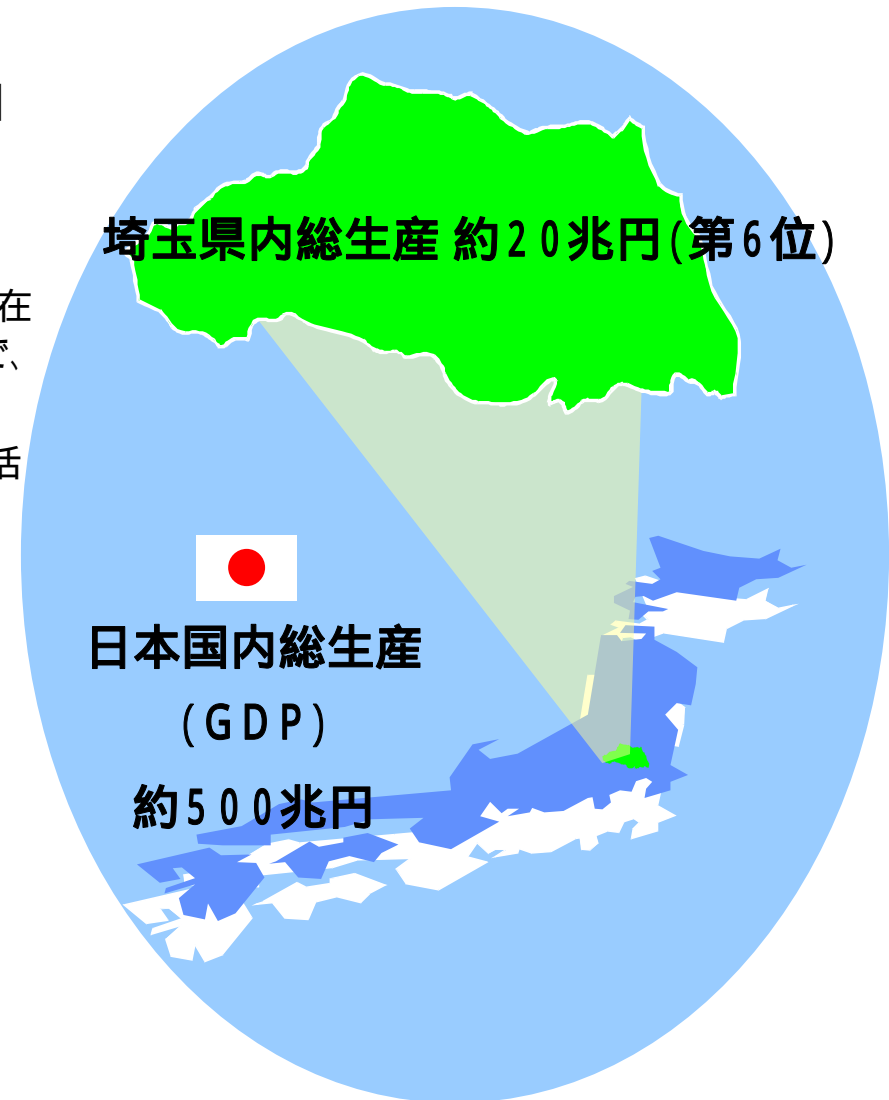
### ■ 県内の産業

- 2001年の埼玉の県内総生産は約20兆円で、全国第6位の規模となっている。
- 埼玉県には多彩な産業が集積している。
  - 化学製品、金属製品、電気機械など多くの製造業が存在しており、それらの製造品出荷額等は約13兆2千億円で、愛知、神奈川、静岡、大阪に次いで全国5位。
  - さらに、卸・小売業、サービス業、住宅関連産業など生活に密着した産業も全国有数の規模を有している。これらの産業は、人口の伸びを反映して今後も拡大基調での推移が予想される。

### ■ 他の経済指標

- 事業所数 266,775事業所(全国の4.2%、全国6位)
- 従業者数 2,556,596人(全国の4.2%、全国6位)
- 大型小売店販売額 10,487億円(全国の4.9%)
- 新設住宅着工戸数 73,376戸(全国4位)

出所：総務省「国民経済計算」、経済産業省「工業統計調査」他





# 埼玉県内経済動向 ~ 緩やかな回復の動き続く ~

## ■ 最近の埼玉県の経済情勢

- 県内景気は全国同様「踊り場局面」にあるが、過剰設備や過剰債務といった構造調整問題からは、脱却しており、2005年度の埼玉県の実質経済成長率は、4年連続してプラス成長となる見込み。
- 直近の需要項目別の動向を見ると、個人消費など一部に弱い動きも見られるが、設備投資が堅調に推移しているほか、住宅着工も増加基調を継続。

### • 景況判断（ほぼ横這い）

- 企業経営者の景況判断（3月）を見ると、景況感DIはマイナス幅が0.2ポイントと僅かながら低下（12月比）したものの、ほぼ横這い圏内。

### • 個人消費（弱含みだが、一部に持ち直しの動き）

- 3月の乗用車新車登録台数（含む軽）は、前年同月比 1.7%と2ヶ月連続して減少。コンビニエンスストア販売額（関東経済産業局管内）も同0.5%と前月に続き減少した。一方、3月の大型小売店販売額（全店舗）は、スーパーが牽引役となり、同1.0%の増加となった。

### • 設備投資（2年連続の増加）

- 2004年度の設備投資計画は、製造業・非製造業ともに増加し、全産業で前年度比3.5%増と2年連続の増加（2004年11月調査）。

### • 住宅投資（増加基調）

- 3月の新設住宅着工戸数は、貸家が減少したものの、持家が増加し、分譲もマンション・戸建てともに増加したことから、全体では前年同月比4.7%増と3ヶ月連続して前年実績を上回った。

### • 生産活動（生産は弱い動き続き、在庫は高水準）

- 2月の鉱工業指数（2000年=100）は、生産が94.0で、前月比2.4%、出荷も同 4.0%とそれぞれ低下し弱目の動きが継続。在庫は前月比2.0%上昇し高水準が続いている。

### • 雇用情勢（水準は低いものの、改善基調）

- 3月は有効求人倍率が0.84倍で前月比横這い。新規求人倍率は1.50倍と同0.10ポイント上昇し、持ち直しの動きとなっている。新規求人数を業種別に見ると、運輸・通信業、卸・小売業、製造業などで増えており、全体で前年同月比12.0%増と、改善基調にある。

### • 物価動向（概ね横這い）

- 2月の消費者物価指数（さいたま市）は、前年同月比で0.1%と6ヶ月連続で前年実績を上回ったが、概ね横這いの動き。

### • 倒産（沈静化）

- 3月の企業倒産件数は55件で前月比7件増加したものの、昨年5月以降ほぼ40～50件台で推移しており基調としては沈静化。

出所：埼玉県「彩の国経済の動き」2005年4月 他

# 当行プロフィール ~ 地域貢献を経営理念とし、埼玉で半世紀余 ~

## ■ 会社概要 (2005年3月末日現在)

- 設立 1952年(昭和27年)3月6日
- 本店 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8
- 従業員 1,898名
- 資本金 366億9千万円
- 有人店舗 90か店(県内88、県外2)
- 店外ATM 114か所  
コンビニを含めたATM網・・・県内1,404か所

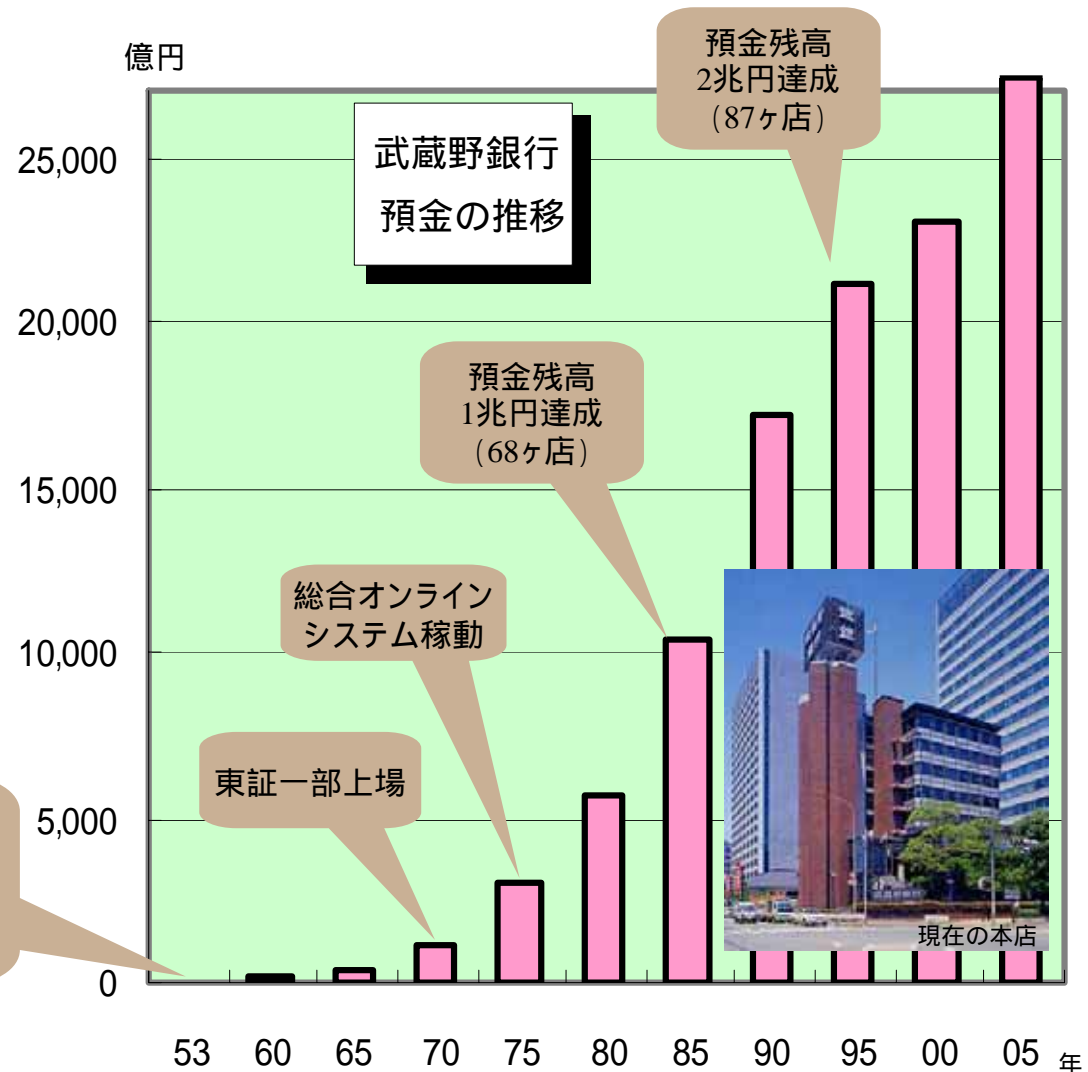
## ■ 経営理念

- 「地域共存」「顧客尊重」を永遠のテーマとし、埼玉の地元銀行として総合金融サービスの向上に努め、地域経済・社会の発展に貢献する。



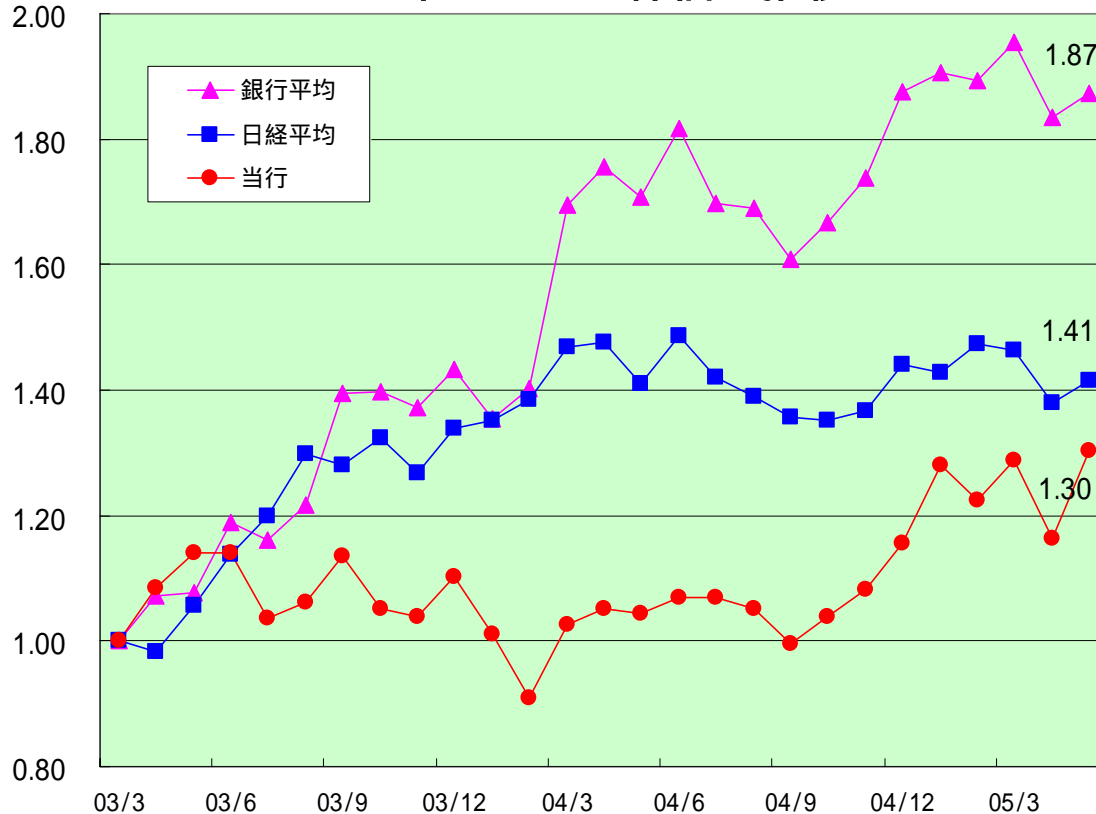
創業日の本店

資本金1億円、  
本店を県内交通の  
要衝の地である  
大宮市に置き、  
8か店で営業開始



# 当行株価の推移と資本効率等

## 03 / 3末を1とした株価の推移



## 05年3月期の資本効率等 (連結ベース) (%、倍)

	当行	地銀平均
R O E	7.40	3.90
配当性向	18.21	20.91
P B R	1.27	1.16
P E R	17.95	21.80

平均は、上場地銀57行の単純平均

# リレーションシップバンキングへの取組み ~ 計画を達成 ~

## < 2年間 (03年4月 ~ 05年3月) の主な取組み >

### ■ 創業・新事業支援

- 本部専門部署「ニュービジネス推進室」の設置 (03年10月)
- 当行独自の投融資ファンドの制定 (投融資実績13件 335百万円、審査中28件 205百万円)
- 政府系金融機関 (中小企業金融公庫等4先との協定締結) 等との提携
- 産学連携 (埼玉大学、東洋大学、日本工業大学)

### ■ 新しい中小企業金融への取組み

- 無担保且つ第三者保証人不要の「スコアリング商品」の新規開発 (期間中6商品)、改訂
- 一括決済業務、ノンリコースローン、シンジケートローンのアレンジャー業務等の取扱い

### ■ 事業再生支援

- 本部専門部署「融資第二部」内に「企業経営支援室」の設置 (03年4月)
- 「経営計画策定支援システム」の導入 (03年10月)
- 政府系金融機関・中小企業再生支援協議会との連携、外部コンサルタントの活用

### ■ 経営相談、支援機能の強化

- 「法人コンサルティング室」の設置 (04年10月)
- 営業斡旋情報や不動産情報等のビジネスマッチング (実績98件)
- M & A 業務 (相談57件)、海外進出支援 (相談・情報提供377件)



本日は、  
弊行会社説明会にご参加いただきまして  
誠に有り難うございます。

本日配布致しました資料に記述されている  
将来の業績予想及び未確定の目標値等は、  
経営環境の変化等に伴い変化し得ることに  
ご留意下さい。

本日の説明に関するご照会先

武蔵野銀行 総合企画部

048 - 641 - 6111 (代)

担当：坂本・田上 (IRグループ)